履　修　要　項

Ⅰ　授業科目の構成 …… 13
Ⅱ　単位の計算方法 …… 13
Ⅲ　卒業に必要な単位数 …… 14
Ⅳ　進級に必要な単位数等 …… 15
Ⅴ　履　修　登　録 …… 15
Ⅵ　授　　業 …… 16
Ⅶ　学　籍　異　動 …… 18
Ⅷ　試　　験 …… 18
Ⅸ　単位の修得及び学業成績 …… 20
Ⅹ　単位互換制度 …… 22
Ⅺ　文部科学大臣が定める学修による単位認定 …… 23
Ⅻ　海外研修制度 …… 23

授業科目及び履修方法

〈初等教育学科・教育心理学科〉

Ⅰ　総合教養教育科目，外国語教育科目 …… 25
Ⅱ　初等教育学科専門教育科目 …… 35
Ⅲ　教育心理学科専門教育科目 …… 48
Ⅳ　自由選択科目 …… 65

この履修要覧は入学年度（新入生）にのみ配付いたします。新入生の皆さんは，この履修要覧を卒業するまで大切に保管してください。（※紛失しても再配付はできません。）

この履修要覧には，学則等の規則や，本学学生として在学中に必要な事項が記載されていますので，よく読んでください。

なお，履修要覧の記載に変更が生じた場合は，掲示等でお知らせします。

就実大学・就実短期大学
教務課
〒703-8516
岡山市中区西川原1－6－1
TEL：086－271－8120
FAX：086－271－8119
E-mail：kyoumu@shujitsu.ac.jp

平成29年４月１日発行

履修要項

授業科目の履修に関して，学則に明示されていない細目は，この履修要項に定めるところによる。

Ⅰ　授業科目の構成

1．本学において開設する科目は，次のとおりである。

⑴　総合教養教育科目

⑵　外国語教育科目

⑶　専門教育科目

⑷　諸課程に関する科目

a　教職に関する科目　　b　博物館に関する科目　　c　図書館に関する科目

d　司書教諭に関する科目　　e　社会教育に関する科目　　f　医療秘書に関する科目（2015･2014年度生適用）

2．これらの授業科目は，履修の方法により，次のように分類される。

⑴　必修科目　必ず履修しなければならない授業科目で，この必修科目のすべての単位を修得しなければ，卒業することはできない。

⑵　選択必修科目　定められた枠の中から各自が選択履修し，所定の単位数を必ず修得しなければならない授業科目である。

⑶　選択科目　各自が自由に選択し履修する授業科目である。ただし，学則に定める卒業に必要な単位数を充足するように選択履修しなければならない。

Ⅱ　単位の計算方法

各授業科目の単位数は，次の基準により計算するものとする。

1．講義については，15時間の授業をもって１単位とする。

2．演習については，15時間から30時間の授業をもって１単位とする。

3．実験、実習及び実技等については，30時間から45時間の授業をもって１単位とする。

4．卒業研究については，これに必要な学修等を考慮して，８単位とする。

Ⅲ　卒業に必要な単位数

本学を卒業するためには，それぞれの学科所定の科目・単位を次表のとおり修得しなければならない。

学科／授業科目区分	初等教育学科			教育心理学科		
総合教養教育科目	人権の現代的課題	必	2	人権の現代的課題	必	2
	日本国憲法	必	2	日本国憲法	必	2
	情報と表現	選必	2	情報と表現	選必	2
	情報と文化			情報と文化		
	情報処理演習１			情報処理演習１		
	情報処理演習２			情報処理演習２		
	スポーツと健康	選必	2	スポーツと健康	選必	2
	スポーツと社会			スポーツと社会		
	スポーツ１～４	選必	1	スポーツ１～４	選必	1
		選	11		選	11
総合教養教育科目小計			20			20
外国語教育科目	English Reading1～4	必	4	English Reading1～4	必	4
		選	2		選	2
外国語教育科目小計			6			6
専門教育科目	教職論（＝教師論）	必	2	教育学概論	必	2
	教育学概論	必	2	教職論（＝教師論）	必	2
	教育心理学	必	2	心理学概論	必	2
	発達心理学	必	2	教育心理学	必	2
	音楽Ⅰ・Ⅱ	必	各１	発達心理学Ⅰ (2015年度以降は発達心理学)	必	2
	図画工作Ⅰ・Ⅱ	必	各１	特別支援教育総論	必	2
	体育Ⅰ・Ⅱ	必	各１	養護学概論Ⅰ(2011～2014年度生)	必	2
	初年次教育Ⅰ・Ⅱ	必	各１	学校保健（2015年度生以降）	必	2
	初等教育ゼミナールⅠ～Ⅳ	必	各２	初年次教育Ⅰ・Ⅱ	必	各１
	卒業研究	必	6	教育心理ゼミナールⅠ～Ⅳ	必	各２
				卒業研究	必	6
		選	32		選	32
専門教育科目小計			62			62
自由選択科目			36			36
合計	124単位以上			124単位以上		

※自由選択科目

総合教養教育科目，外国語教育科目，専門教育科目において各最低修得単位数を超えて修得した単位の他，他学科受講制度を利用して修得した単位，資格課程で修得した単位，入学前ないし在学中に他大学で修得した単位のうち専門科目に読み替えできない単位を「自由選択科目」の単位とし，卒業要件単位としてカウントする。

Ⅳ　進級に必要な単位数等

1．学生は，３・４年次生及び長期履修学生を除き，当該年次に卒業要件科目を20単位以上修得しなければ，上位年次に進級できない。

2．当該年度に休学期間がある場合には，原則としてその年度に10単位以上修得していなければ進級できない。なお，休学期間がある場合の措置は，在学中１回限りの適用とする。

3．長期履修学生は，４年次生を除き，前回の進級（１年次は入学）以後通算して卒業要件単位科目を20単位以上修得しなければ，上位年次に進級できない。

4．進級のための再試験は行わない。

Ⅴ　履　修　登　録

1．履修登録上の注意事項

⑴　授業科目の履修は，学則第19条の規定に従って，各年次に履修すべき授業科目を考慮して計画を立てること。

⑵　各年次での履修登録単位数は，**前学期・後学期を通じて，最高48単位を超えてはならない。**ただし，諸資格課程に関する科目等の単位数はこの制限に含めない。

⑶　一度登録した授業科目の変更は後期の追加登録及び削除以外許されないので，履修登録の際には慎重に履修計画を立てることが必要である。

⑷　登録した授業科目は，途中で放棄することなく必ず履修し，試験を受けなければならない。途中で放棄したり，試験を受けなかった場合は不合格となる。

⑸　クラス指定あるいは学科指定のある授業科目は，必ず指定された時間に履修しなければならない。

⑹　特定の授業科目及び特定の教室を使用する授業科目（英語，情報処理，書道等）については，履修人数を制限する場合がある。

⑺　第１年次に配当されている授業科目は，第１年次に履修することが望ましい。その他の年次においても同様である。

⑻　各年次とも，上位年次に配当されている授業科目を履修することはできない。

⑼　同一時限に２科目を重複して登録受講することはできない。

⑽　過年度に，合格点を得た科目を再度登録することはできない。ただし，重複履修可の科目は除く。

⑾　前学期・後学期を通じて，48単位（１年間に履修登録できる単位数の最高限度）を超えない範囲で後期追加登録をすることができる。なお，後期追加登録時に，後期科目の削除も認められる。

2．登録申請並びに手続方法

学生は，後期履修する授業科目を含め，各年次において単位を修得しようとする授業科目について，各自登録しなければならない。授業科目の登録は，下記の要領に従って年度の当初に行うこと。この登録を怠ると，その年度の授業及び試験を受け単位を修得することができないので十分注意すること。

⑴　年度始めのオリエンテーション（「履修指導」）の際，担当教員から説明を聞き，「時間割表」及び「履修要覧」（授業科目表・履修上の注意）を参照して，各年度に履修しようとする授業科目を決定すること。

⑵　この全授業科目（必修，選択必修，選択，集中，資格課程）はすべて年度始めのオリエンテーション履修指導時に配付される「履修登録下書き用紙」に記入すること。

⑶　指定された日時に「履修登録下書き用紙」を持参し，情報教室のパソコンを使って履修希望科目の申請をすること（Web履修申請）。

⑷　履修申請した科目について，後日「確認リスト」を配付するので，指定された場所で，履修登録もれや誤りがないかを確認すること。

　１つでも履修登録もれや誤記を発見したら，指定された情報教室のパソコンで訂正すること（後日教務課で再確認）。もし履修登録もれや誤記を訂正しないまま放置しておくと，授業・試験を受けても単位認定されないので注意すること。

⑸　「確認リスト」に間違いがなければ，氏名の右横に印鑑を押して提出。**その後の追加・削除・訂正には一切応じない。**

⑹　後期科目追加登録（削除）希望者は，指定された日に手続を行うこと（詳細は掲示板で伝える）。

Ⅵ 授　　業

１．授業時間

平常の授業は，時間割表に従って次の時間で行われる。

Ⅰ時限　　９：10　～　10：40
Ⅱ時限　　10：50　～　12：20
Ⅲ時限　　13：10　～　14：40
Ⅳ時限　　14：50　～　16：20
Ⅴ時限　　16：30　～　18：00
Ⅵ時限　　18：10　～　19：40

２．休　　講

授業担当者がやむを得ない事情で授業を休講する場合は，事前に掲示により伝達する。休講掲示がなく，始業時より30分以上経過しても連絡のない場合は，教務課へ申し出て指示を受けること。

３．臨時休講　　警報発令の際の取り扱い

午前７時に岡山県岡山地域に暴風警報または特別警報が発令されている場合は臨時に休講とする（大雨警報・洪水警報の場合は休講としない）。ただし，午前10時までに暴風警報が解除された場合は，Ⅲ時限から授業を実施する。

休講となった場合には，後日補講する。

４．欠　　席

⑴　欠席届

授業を欠席する場合は，「欠席届」を授業科目担当者になるべく事前に届け出る。もし，事前に届けられなかった場合は，事後すみやかに届け出ること。

⑵　長期欠席届

７日以上の病気欠席の場合は，医師の診断書を添えて所定の用紙に記入し，教務課に届け出ること。

⑶　公欠届

公欠届は下記の場合に限り，所定の用紙に記入し，教務課に届け出る。

※ただし，補講および集中講義については，原則として公欠は認められない。

①　諸課程の単位修得のための実習期間など。

②　「学校保健安全法」及び「同法施行規則」及び本学規定に定める感染症（下記参照）に罹患した場合。（出席停止期間証明書または診断書が必要）

・下表の感染症と診断された場合には，速やかに教務課まで電話で報告すること。

・**治癒後**に受診機関より「出席停止期間証明書」または「診断書」の交付を受け，授業公欠届（教務課申請用）とともに届け出る。

※その他の感染症以外の診断書については病名・出席停止期間の記載があるものに限る。

※［第３種］のその他の感染症は「出席停止期間証明書」（本学様式）に限る。

※授業公欠届（教務課）及び出席停止期間証明書は，履修要覧巻末または学内専用ページ（Web）からダウンロードすること。

感染症についての出席停止期間の基準

学校保健安全法施行規則（平成27年1月21日改正）

感染症の種類		出席停止期間の基準 （以下の基準に基づき、主治医が判断する）
［第１種］	エボラ出血熱	治癒するまで
	クリミア・コンゴ出血熱	
	痘そう	
	南米出血熱	
	ペスト	
	マールブルグ熱	
	ラッサ熱	
	急性灰白髄炎	
	ジフテリア	
	重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスに限る）	
	中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスに限る）	
	特定鳥インフルエンザ	
	新型インフルエンザ等感染症	
	新感染症	
［第２種］	インフルエンザ（特定鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）	発症した後５日を経過し、かつ、解熱した後２日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで又は５日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻しん	解熱後３日を経過するまで
	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	風しん	発疹が消えるまで
	水痘（みずぼうそう）	すべての発疹が痂皮化するまで
	咽頭結膜熱（プール熱）	主な症状がなくなって２日を経過するまで
	結核	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと 認めるまで
	髄膜炎菌性髄膜炎	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと 認めるまで
［第３種］	コレラ	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと 認めるまで
	細菌性赤痢	
	腸管出血性大腸菌感染症	
	腸チフス	
	パラチフス	
	流行性角結膜炎	
	急性出血性結膜炎	
	その他の感染症 （学校医その他の医師において感染のおそれがあり出席停止の措置が必要と認める感染症）※	

※第２種については、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときは、この限りでない。
※第３種のその他の感染症については、「出席停止期間証明書」に限る。（診断書は無効）

③　忌引によるもの（会葬礼状等の証明書類が必要）※忌引の適用される親族と日数

・１親等の親族（父母）の場合は連続した（休日含む）７日まで
・２親等の親族（祖父母・兄弟姉妹）の場合は連続した（休日含む）３日まで
・３親等の親族（曾祖父母・伯叔父母・甥姪）の場合は１日のみ

④　その他

教務部長，各学部長，短大部長，各学科長などの協議の結果，やむを得ないと認められた場合。

Ⅶ　学籍異動

休学をする場合は，事前にクラス担任または指導教員に相談すること。

休学の願い出は，月日をさかのぼって願い出ることはできない。休学期間の取扱については，教務課で説明を受けること。

１．休学・復学

⑴　疾病その他やむを得ない事由により３か月以上修学することのできない者は，保証人連署のうえ学長に願い出，その許可を得て休学することができる。

疾病による場合は，医師の診断書を添付すること。

⑵　休学中は，当該期間の単位を修得することはできない。

⑶　休学できる期間は休学願を提出する月の翌月以降，月初めから１か月単位で，当該年度末までである。

⑷　休学の期間は，１年を超えることができない。ただし，特別な事由がある場合は，引続き更に１年まで延長することができる。

⑸　休学の期間は，通算して４年を超えることができない。

⑹　休学の期間は，学則第４条第２項の在学年限に算入しない。

⑺　休学期間中は，学納金の一部が免除される（学則第42条）。

⑻　休学期間満了の場合又は休学期間中にその事由が消滅したときは，学長の許可を得て復学することができる。

２．退学・再入学

⑴　退学をしようとする者は，その事由を詳記し，保証人連署のうえ，学長に願い出，その許可を得なければならない。

前期末退学を希望する者は，9月30日
後期末退学を希望する者は，3月31日までに教務課に相談すること。

⑵　願いにより本学を退学した者又は学則第38条第１号により除籍された者が，再入学を希望するときは選考のうえ入学を許可することがある。

３．転学部・転学科

本学の他の学部に転学部または同一学部の他の学科に転学科を希望する者があるときは，選考のうえ許可することがある。

４．除　　籍

次に該当する者は，教授会の意見を聴き，大学教育研究評議会で審議し，学長が除籍する。

⑴　授業料その他の学納金の納付を怠り，督促してもなお納付しない者。

⑵　学則第４条第２項に定める在学年限を超えた者。

⑶　学則第36条第２項に定める休学期間を超えてなお修学できない者。

⑷　長期間にわたり行方不明の者。

⑸　学力劣等で成業の見込みがないと認められる者。

５．復　　籍

除籍になったものが除籍通知後１年以内に未納の学納金を納付し，復籍の願い出があった場合には，評議会で審議し，学長が復籍を許可することがある。

除籍前に修得した授業科目及び単位数の全部又は一部をすでに修得したものとして認めることがある。この認定は教授会の意見を聴き学長が行う。

Ⅷ　試　　験

単位を修得するためには，履修登録した授業科目につき，その授業を受け（予習・復習・課題などの時間を含む），かつ本学で施行する試験に合格しなければならない。ただし，授業料，その他納付金の未納者は受験でき

ないことがある。また，履修登録していない科目を受験しても，単位を修得することはできない。

１．試験の方法

試験は，それぞれの授業科目に応じて筆記・口述・レポート・論文・作品の製作・実技等によって行う。

２．試験の種類

⑴　学期末試験

学期末試験は，原則として定期試験期間内に行われる。ただし，必要に応じ，試験の日時・場所等の調整を行うことがある。

試験を実施する授業科目は，日時・実施方法等をあらかじめ担当教員から教務課へ連絡のあったもののみ掲示する。

〈授業科目の不合格発表〉

卒業年次生のみ当該学年で履修したすべての科目について２月下旬教務課から学内に授業科目ごとに学籍番号を掲示する。（卒業年次生とは，修業年限，修得単位の状況等から判断して，当該年度末に卒業可能な者）

⑵　追試験

追試験は，下記に示す病気その他やむを得ない事由により学期末試験を受験できなかった者に対して行う。ただし，欠席当日を含め３日以内に教務課へ連絡すること。

①　病気欠席（医師の診断書を提出のこと）

②　就職試験日時との重複（教務課の所定用紙にキャリアセンターの証明印を押したものを提出のこと）

③　忌引（父母は１週間以内，兄弟姉妹祖父母は３日間以内で，死亡を証明する書類（会葬礼状等）を提出のこと）

④　その他特別な事情により，教務部長が正当と認めた場合

（①～③の証明書類は，欠席の連絡日から１週間以内に教務課へ提出すること。）

⑶　再試験

・卒業年次生で，その年度の試験の結果，卒業に必要な単位のうち，10単位以内の不足がある場合に限り，**不足単位数の範囲内で**再試験を受けることが出来る。

なお再試験は，当該年度に履修した科目に限る。

・欠席が著しく多い（原則として授業回数の1/3以上）とき，試験を無断で欠席したり，授業態度，レポート等の提出が著しく悪いとき，再試験受験資格を失うことがある。これは，各授業科目の担当者が総合的に判断する。再試験受験資格の有無は，前期科目は成績表により，後期科目は不合格発表により各自確認すること。

・諸課程に関する科目の単位修得の場合は，上記再試験の規定によらない場合がある。

〈再試験手続〉

教務課所定の用紙に必要事項を記入し，押印の上，受験手数料１科目1,000円を添えて出願受付期間内に教務課へ申し込むこと。

再試験の日時は教務課より学内に掲示する。

卒業年次生の再試験の不合格者については，教務課より学内に授業科目ごとに学籍番号を掲示する。

３．レポートの提出

試験にかわるレポートの提出方法は，次の通りである。

⑴　本人が指定された場所（担当教員または教務課）に直接提出すること。

⑵　大学指定の表紙に必要事項を記入し，必ずホッチキスでとじて提出すること。

⑶　字数や表紙の有無などレポートの様式については，授業科目担当者の指示に従うこと。

⑷　提出の締切日時は厳守すること。（事務受付時間は月曜日～金曜日午前９時より午後４時45分まで。）

４．試験に関する注意事項

⑴　試験の欠席

試験を欠席する場合は，欠席当日を含め３日以内（土・日は除く）に必ず教務課へ電話で連絡すること。（TEL　086－271－8120）

※欠席連絡がない場合は，追試験の対象とならない。連絡方法は電話に限る。

⑵　受験資格者以外の受験の禁止

受験資格のない者（当該科目を履修登録していない者など）は受験できない。万一間違えて受験してもその成績は無効となる。

⑶　学生証の呈示

学生証のない者は受験できない。学生証は試験中，机上に呈示すること。

試験当日，学生証を忘れた者は，教務課で仮学生証（当日のみ有効）の交付を受けること。

⑷　座席の指定

試験室では指定された席に着くこと。

席が指定されていない場合は監督者の指示に従う。

⑸　所持品について

机上に置くことが出来る物は，持ち込みを許可されたものと筆記用具に限る。それ以外のものは各自の足下に置くこと。（原則として下敷きは許可しない）

スマートフォン・携帯電話については，電源を切り机上に置くこと。

⑹　答案持ち出しの禁止

試験室に入室した者は，必ず答案を提出すること。

無断で持ち帰ることは許されない。

⑺　遅刻及び退出

試験開始より20分経過後は入室できない。

監督者が必要と認めれば，試験開始後30分を経過したのち退出することが出来る。ただし，退出後の再入室は出来ない。

⑻　試験完了後の入室

試験が完了しても，答案回収の整理がすむまで試験室への入室は禁止する。

５．試験中の不正行為（P.133頁参照）

試験中，不正な行為が確認された場合，当該授業科目の試験日を含め，以後の受験を停止したうえ，これを学内に公示する。

不正行為をした者の当該学年における通年履修科目はすべて０点とする。半期の科目については不正行為の行なわれた学期に履修したものを０点とする。

Ⅸ　単位の修得及び学業成績

１．授業科目の授業を受け，かつ試験もしくはその他の方法による学習効果の判定において合格した者は，その授業科目の課程を修了したものと認められ，所定の単位が与えられる。

２．学業成績は，100点満点とし，60点以上を合格，60点未満を不合格とする。

３．成績の評語は，90点以上を秀，80点以上を優，70点以上を良，60点以上を可とし，60点未満を不可とする。

点　　数	100～90	89～80	79～70	69～60	59以下	
成績証明書	秀	優	良	可	記載なし（不可）	
成　績　表	S	A	B	C	D	E
再試験受験資格（卒業年次生のみ）					有	無

4．再試験による成績は，最高60点までとする。

5．合格点を得た授業科目を再度受験することは許されない。ただし，重複履修可の科目は除く。

6．成績表は前期末及び後期末に本人及び保証人あてに送付する。また，学生本人には４月の履修指導時に配付する。

GPA（Grade Point Average）制度について

本学では，GPA制度を導入している。GPAとは，授業ごとの成績評価（秀，優，良，可，不可）に対応する点数（GP：Grade Point）を付与して，１単位あたりの平均値を算出し一定水準に到達しているかどうかを評価する制度のことである。

◎　GPA制度の目的

1．成績不振の学生を早期に発見し，担任制度や科目担当教員による適切な支援・指導を行う。

2．GPA評価により，自らの成績を客観的に自己評価し，学習意欲の向上を図る。

3．修得単位数だけでなく，GPA評価により個々の科目のレベルアップを図るよう喚起する。

4．GPAを目安にして，履修登録科目数の自主規制を促し，目標達成のための計画的履修を促す。

5．標語評価に加え，厳格なGPA評価により，総合的な学力の向上及び質の保証を図る。

◎　Grade Point（GP）は，以下の通りとする。

GPA制度による成績評価				
成　績（評　点）	評　語（成績証明書）	評　語（成績表）	G　P	判　定
90～100点	秀	S	4	合　格
80～ 89点	優	A	3	
70～ 79点	良	B	2	
60～ 69点	可	C	1	
0～ 59点	不可	D・E（注）	0	不合格

（注）卒業年次生に限り不可科目については，一定の条件のもと再試験が実施されるが，E判定で不可になった場合は，再試験の受験資格がない。

◎　GPAの算出方法

$$\text{GPA}=\frac{\text{（履修登録科目で得たGP×その科目の単位数）の合計}}{\text{履修登録科目の単位数の合計}}$$

対象科目については，各学部で定めるものとし，履修指導の際に説明する。

◎　GPAの利用法

GPAは，成績証明書や成績表には記載せず，別途配付する。

GPAによって学習状況の把握ができる。例えば，GPAが2以下の場合は，それぞれの科目で期待されている

達成度よりも低い状態が多いことを示しており、奮起が必要である。また、前の学期よりもGPAが下がっていれば、学習上に何らかの問題がある。このように、学期毎のGPA値を見ながら、自主的かつ意欲的な履修計画に利用できる。

GPAは，教員による修学指導の他，奨学金，表彰等の対象者の選考に利用されることがある。

◎　履修中止制度

一定期間受講し，「授業内容が期待したものではない」，「授業を理解するのに知識が不足している」等の理由により，履修を取り止めることが適当と判断した科目については，その当該科目の履修中止が認められることがある。ただし，必修科目，特定科目，集中講義科目や各学部･学科で指定した科目は，履修中止の対象とはならない。

履修中止の申請期間は，授業開始２週目終了前後の1週間を予定している。指示された期間内に教務課で手続きを行うこと。その場合テキストの返品は認められない。履修中止とした科目はGPA算出の対象とならないが，申請手続きをせずに履修放棄した場合は，その科目は不合格（GP値は0点）となり，GPA値が下がる。また，履修中止した科目の単位数は，履修登録上限単位数に含まれるので，計画的な履修を心がなければならない。

X　単位互換制度

本学では，大学コンソーシアム岡山との間に単位互換協定を結んでおり，下記に示す授業科目を４年間で10単位まで履修できる。これらの科目を修得した場合，卒業要件単位の自由選択として認定することができる。ただし，卒業に必要な単位数のうち定められている単位数は就実大学で開講されている科目から修得しなければならない。また，これらの科目を履修する場合は，１年間に履修登録できる48単位に含めることとする。履修希望者は，オリエンテーション期間行事表を確認し，説明会に必ず出席すること。履修申込期間を厳守のうえ，本学教務課に申し込むこと。

履修科目等の詳細は，「大学コンソーシアム岡山」のホームページ
http://www.consortium-okayama.jpを参照，または教務課へたずねること。

Ⅺ　文部科学大臣が定める学修による単位認定

本学に入学以前又は以後に，下表に示した検定試験等で一定の成績を修めた者に対し，申請に基づいて単位の認定を行う。この単位は，年間履修登録単位数の上限48単位の枠外とし，卒業要件単位として教務委員会が認定する。複数の試験による申請や同じ試験による複数回の申請も可能であるが，前回認定された単位を上回った場合のみ，その差の単位を追加認定する。

①

試験の種類＼認定単位数	2	4	6	8
実用英語技能検定試験（英検）	－	準１級	－	１級
TOEFL PBT TOEFL CBT（Test of English TOEFL iBT　as a Foreign Language）	480～519点 157～189点 54～ 67点	520～559点 190～219点 68～ 82点	560～599点 220～249点 83～ 99点	600～677点 250～300点 100～120点
TOEIC（Test of English for International Communication）	550～619点	620～729点	730～859点	860～990点

※上限８単位（検定外国語１～４）まで認定を行う。

※外国語教育科目の単位として認定される。

②

試験の種類＼認定単位数	1	2
日本漢字能力検定	準１級	１級

※上限２単位（漢字検定１～２）まで認定を行う。

①②単位認定申請書　提出締切：（前期）７月末日，（後期）１月末日

※合格証明書又は成績証明書を添付のこと

提 出 先：教務課

Ⅻ　海外研修制度

１．短期海外研修制度

本学が企画する海外語学研修に参加し，研修修了証および所定の書類を提出すると，「異文化コミュニケーション１～４」２単位が認定される。

研修先および期間については，掲示をよく確認すること。

研修先：⑴　英国　カンタベリー・クライスト・チャーチ大学　（約３週間）

⑵　アメリカ　ハワイ大学マノア校　（約３週間）

⑶　オーストラリア　クイーンズランド大学　（約３週間）

⑷　台湾　清華大学　（約２週間）

⑸　韓国　祥明大学校　（約２週間）

参加資格：①通常の学生生活を送るのに支障のない健康状態であること

②授業出席率は80％以上であること

手　続：科目としての履修登録は行わず，「単位認定に関わる海外研修申込書」を総合受付カウンターに提出してください（研修申込書は総合受付カウンターに置いてあります）。

提出期日については，掲示をよく確認すること。

単位認定：短期海外研修終了後，科目の履修登録及び単位認定がなされる。

②　海外研修２単位は履修登録上限単位数48単位（諸課程に関する科目の単位数は除く）に含まない。

２．その他の短期海外研修

上記以外の研修で，夏期休業や春期休業を利用した個人参加の海外語学研修に対し，申請に基づいて本学の短期海外研修と同様に扱い，単位を認定する。３週間以上の研修を「異文化コミュニケーション１～４」２単位（６週間以上の場合は４単位）とし，合計８単位まで認定する。複数回の申請も可能である。

なお，この科目が対象とする海外研修は，本学との提携外の研修なので，研修中の安全等に関しては自己責任で行うこと（研修先との問題，研修中の事故等については，本学はいかなる責任を負うものでもない）。

この制度による単位取得のためには，研修出発の２ヶ月前までに所定の書類を国際交流センターに提出しなければならない。

申請書類：研修前　「単位申請書」,「研修実施計画書」(国際交流センターの定める書式), 研修先の「研修プログラム」
　　研修後　研修修了証または成績証明書（研修先),「研修報告書」(国際交流センターの定める書式)

申請提出先：本学国際交流センター

３．長期海外語学研修

本学と協定を結んでいる機関で長期（３ヵ月半～１年以内）語学研修を受け，所定のプログラムを修了すると，申請に基づいて本学の単位として認定する。研修実施年次は原則として１年後期から３年次とする。(※)

研 修 先：⑴　英国　ダラム大学　（６カ月）
⑵　英国　カンタベリー・クライスト・チャーチ大学　（１年以内）
（ただし，６ヵ月以上の場合，ビザ取得が必要である。）
⑶　米国　ハワイ大学マノア校　（１年以内）
⑷　米国　リンフィールド・カレッジ
（研修実施は後期のみ。リンフィールドは３学期制）
１学期15週（３ヵ月半），２学期30週（７ヶ月）
⑸　米国　カリフォルニア州立大学（ＣＳＵ）チコ校　（１年以内）
⑹　米国　カリフォルニア州立大学（ＣＳＵ）サンマルコス校　（１年以内）
⑺　カナダ　ビクトリア大学　（６ヶ月）
⑻　オーストラリア　クイーンズランド大学　（１年以内）
⑼　中国　上海師範大学　（６ヶ月）
⑽　韓国　群山大学　（１年以内）
⑾　韓国　公州大学　（１年以内）
⑿　韓国　祥明大学　（１年以内）

出願日時：後期研修は４月１日～４月28日　　前期研修は10月１日～10月31日

申請書類：研修前　長期海外語学研修参加申込書，成績証明書，健康診断書
　　研修後　研修修了証及び成績証明書（研修先），研修報告書（国際交流センターの定める書式，提出期日については，掲示をよく確認すること。

申請提出先：本学国際交流センター

※研修プログラムの授業時間数に応じて単位を認定する。ただし，半期相当の場合，認定単位数は24単位を上限とし，１年以内（前期・後期）の場合は，認定単位数は48単位を上限とする。

授業科目及び履修方法

Ⅰ　総合教養教育科目，外国語教育科目

１－１　授業科目表

⑴　総合教養教育科目

授業科目	2014～2011年度開設科目名（読替科目）	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	履修上の注意
文章表現e	文章表現１	選	2	1	前	講義	
口頭表現e	口頭表現１	選	2	1	後	講義	
学生生活概論		選	2	1のみ	前	講義	１年次のみ履修可
こころの健康科学		選	2	1	後	講義	
現代人とこころの障害a		選	2	1	前	講義	
漢詩文の表現と心		選	2	1	前	講義	
漢詩文の表現と思想		選	2	1	後	講義	
書道　１a・b		選	1	1	前	講義	小一種選択必修
書道　２a・b		選	1	1	後	講義	小一種選択必修
茶道　１a～c		選	1	1	前	講義	
茶道　２a～c		選	1	1	後	講義	
日本文化論１		選	2	1	前	講義	
日本文化論２		選	2	1	後	講義	
ポピュラー音楽の歴史（★）		選	2	1	前	講義	★2014年度生以降
日本人の思想（★）		選	2	1	後	講義	★2015～2013年度生のみ
ヨーロッパ人の思想（★）		選	2	1	後	講義	★2015～2013年度生のみ
アジア人の思想（★）		選	2	1	前	講義	★2015～2013年度生のみ
日本美術史（★）		選	2	1	後	講義	★2015～2013年度生のみ
西洋美術史（★）		選	2	1	前	講義	★2015～2013年度生のみ
東洋美術史（★）		選	2	1	前	講義	★2015～2013年度生のみ
死生観の歴史（★）		選	2	1	前	講義	★2015～2013年度生のみ
現代の哲学と思想		選	2	1	後	講義	
人類学の世界と歴史		選	2	1	前	講義	
アジアの民族誌		選	2	1	後	講義	
地理学の世界と歴史		選	2	1	前	講義	
心理学１	心理学の世界と歴史(2011)	選	2	1	前	講義	初等教育学科のみ履修可
心理学２	現代人のこころと行動(2011)	選	2	1	後	講義	初等教育学科のみ履修可
発想学（★）		選	2	1	後	講義	★2014年度生以降
倫理と価値観の諸相（★）		選	2	1	前	講義	★2015～2013年度生のみ
現代人の倫理と価値観		選	2	1	後	講義	
女性の生活と歴史		選	2	1	前	講義	

授業科目	2011年度 開設科目名	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	履修上の注意
現代の女性環境		選	2	1	後	講義	
人権の現代的課題		必	2	1	後	講義	
法学		選	2	1	後	講義	
日本国憲法 b		必	2	1	前	講義	
社会学の世界と歴史		選	2	1	前	講義	
社会学概論A・B	現代社会の諸問題	選	2	1	前後	講義	
基礎経済学	経済と生活	選	2	1	前	講義	
経済学概論	現代経済論	選	2	1	後	講義	
基礎経営論 (★)		選	2	1	前	講義	★2014年度生以降
基礎会計学 (★)		選	2	1	前	講義	★2015年度生以降
基礎マーケティング論 (★)		選	2	1	後	講義	
金融システムと生活		選	2	1	前	講義	
生活に役立つ統計 (★)		選	2	1	後	講義	★2014年度生以降
マスメディア論 (★)		選	2	1	前	講義	★2014年度生以降
社会生活と儀礼		選	2	1		講義	
現代日本の企業		選	2	1	後	講義	
現代都市の魅力診断		選	2	1	前	講義	
自然地理学		選	2	2	後	講義	
健康と食品a・b		選	2	1	前	講義	
健康と栄養a・b		選	2	1	後	講義	
化学の世界と歴史		選	2	1	後	講義	
化学と環境問題		選	2	1	前	講義	
生命機能のシステム		選	2	1		講義	★2013・2012年度生のみ
生命と自然環境		選	2	1	後	講義	
人体の構造と機能		選	2	1	前	講義	
生命機能のプログラム		選	2	1	前	講義	
生命と生活の化学		選	2	1	後	講義	
病気と環境		選	2	1	後	講義	
いきものと物質		選	2	1	後	講義	
くすりと社会		選	2	1	前	講義	
コンピューターリテラシーa・b		選	2	1	前	講義	
情報と社会a・b		選	2	1	前後	講義	
情報と表現		選	2	1	後	講義	選択必修２単位
情報と文化a・b		選	2	1	前後	講義	初等教育学科１年クラス指定
情報処理演習 1w・x		選	2	1	前	講義	教育心理学科１年クラス指定
情報処理演習 1y・z		選	2	1	前	講義	
情報処理演習 2a～d		選	2	1	後	講義	
スポーツと健康a		選	2	1	前	講義	選択必修２単位
スポーツと社会		選	2	1	後	講義	

授業科目	2011年度開設科目名	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	履修上の注意
スポーツ 1v・w・x		選	1	1	前	演習	初等教育学科1年クラス指定
スポーツ 1y・z		選	1	1	前	演習	教育心理学科1年クラス指定
スポーツ 2		選	1	1	後	演習	選択必修1単位
スポーツ 3a・b		選	1	1	前	演習	
スポーツ 4a・b・c		選	1	1	後	演習	
日本事情 1		選	2	1	前	講義	外国人留学生・帰国子女適用
日本事情 2		選	2	1	後	講義	
日本事情 3		選	2	1	前	講義	
日本事情 4		選	2	1	後	講義	
キャリアデザイン論A・B (★)		選	2	2	前後	講義	
キャリアデザイン論C (★)		選	2	2	後	講義	
インターンシップ1 (★)		選	1	3	集中	演習	
インターンシップ2 (★)		選	1	3	集中	演習	
漢字検定 1・2		選	1	1	集中	演習	
異文化コミュニケーション1		選	2	1	集中	演習	
異文化コミュニケーション2		選	2	1	集中	演習	
異文化コミュニケーション3		選	2	1	集中	演習	
異文化コミュニケーション4		選	2	1	集中	演習	

⑵ 外国語教育科目（初等教育学科・教育心理学科）

授業科目	2013年度 開設科目名 （読替科目）	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	履修上の注意
English Reading 1 w・x		必	1	1	前	演習	初等教育学科１年クラス指定
English Reading 1 y・z		必	1	1	前	演習	教育心理学科１年クラス指定
English Reading 2 w・x		必	1	1	後	演習	初等教育学科１年クラス指定
English Reading 2 y・z		必	1	1	後	演習	教育心理学科１年クラス指定
English Reading 3 w・x		必	1	2	前	演習	初等教育学科２年クラス指定
English Reading 3 y・z		必	1	2	前	演習	教育心理学科２年クラス指定
English Reading 4 w・x		必	1	2	後	演習	初等教育学科２年クラス指定
English Reading 4 y・z		必	1	2	後	演習	教育心理学科２年クラス指定
General English 1 x・z		選	1	1	前	演習	
General English 2 x・z		選	1	1	後	演習	
General English 3 x・z		選	1	1	前	演習	
General English 4 x・z		選	1	1	後	演習	
検定外国語 1		選	2	1	集中	演習	
検定外国語 2		選	2	1	集中	演習	
検定外国語 3		選	2	1	集中	演習	
検定外国語 4		選	2	1	集中	演習	
ドイツ語文法入門 1		選	1	1	前	演習	
ドイツ語文法入門 2		選	1	1	後	演習	
ドイツ語講読入門 1		選	1	1	前	演習	
ドイツ語講読入門 2		選	1	1	後	演習	
ドイツ語中級 1		選	1	2	前	演習	
ドイツ語中級 2		選	1	2	後	演習	
ドイツ語中級 3		選	1	2	前	演習	
ドイツ語中級 4		選	1	2	後	演習	
フランス語文法入門 1		選	1	1	前	演習	
フランス語文法入門 2		選	1	1	後	演習	
フランス語講読入門 1		選	1	1	前	演習	
フランス語講読入門 2		選	1	1	後	演習	
フランス語中級 1		選	1	2	前	演習	
フランス語中級 2		選	1	2	後	演習	
フランス語中級 3		選	1	2	前	演習	
フランス語中級 4		選	1	2	後	演習	
中国語文法入門 1		選	1	1	前	演習	
中国語文法入門 2		選	1	1	後	演習	
中国語講読入門 1		選	1	1	前	演習	
中国語講読入門 2		選	1	1	後	演習	

授業科目	2013年度 開設科目名 （読替科目）	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	履修上の注意
中国語中級1		選	1	2	前	演習	
中国語中級2		選	1	2	後	演習	
中国語中級3		選	1	2	前	演習	
中国語中級4		選	1	2	後	演習	
ハングル文法入門1		選	1	1	前	演習	
ハングル文法入門2		選	1	1	後	演習	
ハングル講読入門1		選	1	1	前	演習	
ハングル講読入門2		選	1	1	後	演習	
ハングル中級1		選	1	2	前	演習	
ハングル中級2		選	1	2	後	演習	
ハングル中級3		選	1	2	前	演習	
ハングル中級4		選	1	2	後	演習	
日本語1		選	1	1	前	演習	外国人留学生・帰国子女適用
日本語2		選	1	1	後	演習	外国人留学生・帰国子女適用
日本語3		選	1	1	前	演習	外国人留学生・帰国子女適用
日本語4		選	1	1	後	演習	外国人留学生・帰国子女適用

＜就実大学教養教育の目標＞

教養カリキュラムポリシー

グローバル社会で活躍できるように学問の裾野を広げ，様々な角度から物事を見ることのできる能力，自主的，総合的に考え，適確に判断する能力ならびに豊かな人間性を養い，自分の知識や人生を社会との関係で位置づけることのできる人材を育てる。

⑴　関心・意欲・態度を身につける

①　違った価値観や伝統，制度を持った異文化の相互関係を知り，深い認識を持つ。

②　人間や社会，自然，環境について深い関心を持ち，豊かな感受性を身につける。

③　自らの洞察を深め，生涯にわたって自己研鑽に努める態度を身につける。

④　高い倫理観と責任感を持ち，他者と協力して仕事を進める意欲・態度を養う。

⑵　知識・理解力を深め，思考・判断力を身につける

⑤　幅広い領域の知識を理解して，専門分野での学修に必要な基礎的知識と複合的な視点を持つ。

⑥　現代社会に関して多面的な知識・理解を持ち，体系的に考え，自らの見解を形成する。

⑦　健康で文化的な生活を営むために必要な知識と方法を修得し，自らの生活の質を高める。

⑧　学修の成果を評価・判断し，自らの生活や社会に還元する柔軟な発想力を身につける。

⑶　技能・表現力を身につける

⑨　日常生活に必要な，聞く・話す・読む・書く力を修得し，正確な意思の疎通を図る。

⑩　少なくとも一つの外国語を用いて，基礎的なコミュニケーションを行う。

⑪　情報及び情報手段を選択し，適切に活用するための基礎的な知識・技能を身につける。

⑫　知識・技能・情報を活用して，自ら構想・創造・表現する力を身につける。

総合教養教育科目カリキュラムマップ

		授業科目	授業形態	教養教育の目標											
				関心･意欲･態度				知識・理解力，思考・判断力				技能・表現力			
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
主題科目	現代社会を生きる	現代都市の魅力診断	講　義	○	○				○						○
		金融システムと生活	講　義	○					○						
		情報と社会	講　義		○				○					○	
		社会生活と儀礼	講　義	○					○					○	
		生活に役立つ統計	講　義		○				○					○	
	グローバルな社会で活躍する	ヨーロッパ人の思想	講　義	○	○					○					
		アジア人の思想	講　義	○				○					○		
		人類学の世界と歴史	講　義												
		アジアの民族誌	講　義												
		地理学の世界と歴史	講　義	○	○			○	○		○				
		西洋美術史	講　義	○	○	○									
		東洋美術史	講　義	○	○					○					
	いのちと健康を考える	こころの健康科学	講　義			○				○					○
		現代人とこころの障害	講　義		○				○	○					
		現代の哲学と思想	講　義		○				○						○
		病気と環境	講　義		○			○		○					
		スポーツと健康	講　義			○			○	○					

		授業科目	授業形態	教養教育の目標											
				関心・意欲・態度				知識・理解力，思考・判断力				技能・表現力			
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
主題科目	人生とキャリアデザイン	キャリアデザイン論	講　義												
		社会学概論（社会の成り立ち）	講　義		○				○		○				
		基礎経営論（お金と生活）	講　義			○					○		○		
		マスメディア論	講　義			○			○					○	
		学生生活概論	講　義				○			○		○			
	豊かな感性を育む	茶道 1，2	講　義		○					○					○
		日本美術史	講　義	○				○	○						
		日本人の思想	講　義		○				○	○					
		ポピュラー音楽の歴史	講　義		○				○	○					
		発想学（アイデアの生み出し方）	講　義			○			○						○
		スポーツと社会	講　義		○					○		○			
一般教養科目	人文科学系科目	心理学１	講　義		○	○									
		心理学２	講　義		○	○				○					
		倫理と価値観の諸相	講　義			○		○							
		現代人の倫理と価値観	講　義		○	○									
		日本文化論 1	講　義	○	○				○						
		日本文化論 2	講　義	○				○				○			
		女性の生活と歴史	講　義	○											
		漢詩文の表現と心	講　義	○	○										
		漢詩文の表現と思想	講　義	○		○									
		死生観の歴史	講　義		○			○							○
		文章表現ｅ	講　義			○						○			○
		口頭表現ｅ	講　義			○			○						○
	社会科学系科目	人権の現代的課題	講　義		○		○		○						
		法学	講　義				○		○	○					
		日本国憲法	講　義	○			○		○						
		社会学の世界と歴史	講　義		○				○		○				
		基礎経済学	講　義			○			○						○
		経済学概論	講　義			○			○						○
		現代の女性環境	講　義	○					○	○					
		自然地理学	講　義	○	○			○							○
		現代日本の企業	講　義						○		○			○	
		基礎マーケティング論	講　義			○					○		○		
	自然科学系科目	健康と食品	講　義			○				○	○				
		健康と栄養	講　義			○				○	○				
		化学の世界と歴史	講　義		○			○		○					
		化学と環境問題	講　義		○			○		○					
		人体の構造と機能	講　義		○			○		○					
		生命機能のプログラム	講　義		○			○		○					

		授　業　科　目	授業形態	教養教育の目標											
				関心･意欲･態度				知識・理解力,思考・判断力				技能・表現力			
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
一般教養科目	自然科学系科目	生命と自然環境	講　義		○					○				○	
		生命と生活の化学	講　義		○					○				○	
		いきものと物質	講　義		○		○			○					
		くすりと社会	講　義					○		○					
	スポーツ科目	スポーツ１	講　義				○			○					○
		スポーツ２	講　義				○			○					○
		スポーツ３	講　義				○			○					○
		スポーツ４	講　義				○			○					○
	情報科目	コンピューターリテラシー	講　義											○	
		情報と表現	講　義								○			○	○
		情報と文化	講　義					○		○				○	
		情報処理演習１	講　義											○	○
		情報処理演習１	講　義			○				○				○	
		情報処理演習２	講　義											○	○
	資格関連科目	教職論（＝教師論）	講　義				○	○	○						
		教育学概論	講　義		○			○	○						
		教育心理学	講　義		○			○	○						
		学校制度論	講　義												
		博物館概論	講　義		○				○					○	
		生涯学習概論Ⅰ	講　義												
		図書館概論	講　義			○			○					○	
	導入科目・技能科目・その他	書道 １	講　義			○		○							○
		書道 ２	講　義			○		○							○
		インターンシップ１	演　習			○	○								
		インターンシップ２	演　習			○	○								
		漢字検定 １	演　習			○									
		漢字検定 ２	演　習			○						○			
		異文化コミュニケーション１	演　習		○	○						○	○		
		異文化コミュニケーション２	演　習		○	○							○		
		異文化コミュニケーション３	演　習		○	○							○		
		異文化コミュニケーション４	演　習		○	○							○		
		日本事情１	講　義	○								○		○	
		日本事情２	講　義	○								○		○	
		日本事情３	講　義	○								○		○	
		日本事情４	講　義	○								○		○	

２　総合教養教育科目の履修について

⑴　履修上の注意

履修登録にあたっては，「履修要項」を参考に，「授業科目時間割表」に示される科目の中から選ぶが，その際の留意事項を少し具体的に示す。

①　総合教養教育科目は授業科目表に示される科目の中から，20単位以上を履修しなければならない。

②　科目名におけるアラビア数字の１および３は前期，２および４は後期を示す。また，同一授業科目の後のアルファベット（小文字）のａ，ｂ，ｃ…は，授業科目の分割を示すので，重ねて履修することはできない。

③　履修登録前に実施した希望調査で，履修曜日・時限などを指定された科目（スポーツ，情報処理など）は，それ以外では，履修できない。

⑵　履修モデル

総合教養教育科目については，その大部分を１，２年次に履修することが望ましい。総合教養教育科目は人文系･社会系，自然･情報系科目に大別されるが，「現代社会を生きる」「グローバルな社会で活躍する」「いのちと健康を考える」「人生とキャリアデザイン」「豊かな感性を育む」の５項目で主題科目を開講している。それらを偏りなく履修し，グローバル社会に出て活躍できる一般教養を身につけてほしい。

■　社会系科目の基礎を身につけたい

「法学」「基礎経済学」「経済学概論」「社会学の世界と歴史」「社会学概論」などを履修する。

■　自然科学の基礎を知りたい

「化学の世界と歴史」「化学と環境問題」「健康と栄養」「健康と食品」「生命と自然環境」「人体の構造と機能」「生命機能のプログラム」などを履修する。

■　パソコンやインターネットの知識・技能を身に付けたい

①「高校時代の情報の授業についていけなかった」「パソコンについてはまったくの初心者だ」という人は補習的科目である「コンピュータリテラシー」を履修する。

②「WordやExcelを一通り使いこなせるようになりたい」「将来の仕事に役立つパソコン技能を身につけたい」という場合は「情報処理演習１」「情報処理演習２」を履修する。「１」から「２」へ順に受講することが望ましいが，自信のある人は「２」だけ履修してもよい。

③ネット上での情報の探し方や信頼できる情報源の見極め方，大学での勉強に必要な「情報の受信」に関する技能を身につけるには「情報と文化」を履修する。

④「パソコンで動画や音楽の作品作りをしてみたい」「インターネット上での情報発信について学びたい」「著作権に興味がある」という場合は「情報と表現」を履修する。

⑤「個人情報やネット社会の問題点について考えたい」「ロボットや人工知能，自動運転などに興味がある」「パソコンの仕組みや歴史を知りたい」という場合は「情報と社会」（講義科目無抽選）を履修する。

■　一般の企業に就職して役に立つ知識を身につけたい

２～３年次に，「金融システムと生活」「現代日本の企業」などを履修する。

■　心身のバランスを取り，健康・体力の維持・増進を図りたい。

実際に体を動かしたり，自分自身の体について考え適切に管理することを目的に，「スポーツ１～４」（実技），「スポーツと健康」「スポーツと社会」（講義）が開設されている。心身のバランスを図り，仲間と一緒に体を動かす楽しさを味わい，体力と健康の維持・増進に努めることで，活力のある学生生活を送ってほしい。そのためには４年間を通じて積極的に履修することが望ましい。

３　外国語教育科目の履修について

(1)　履修上の注意

①　表現文化学科の学生は「General　English１～４」と英語以外の外国語を２単位以上履修しなければならない。

実践英語学科の学生は「Oral Communication Ⅰ～Ⅳ」「English Reading Ⅰ～Ⅳ」と，英語以外の外国語を４単位以上履修しなければならない。

総合歴史学科の学生は「General　English１～４」と英語以外の外国語を４単位以上履修しなければならない。

②　「Oral Communication」「English Reading」の科目名におけるローマ数字（Ⅰ～Ⅳ）は難易度を示す。

③　「General English」は１・２，３・４のように，前・後期引き続き履修するのが望ましい。

④　「General English」は「General English１」から「General English４」までをそれぞれ１科目とし，１単位が修得できる。

⑤　英語以外の外国語は，同一外国語の文法入門および講読入門を履修するのが望ましい。

⑥　英語以外の外国語の中級１～４を履修するには，原則として同じ外国語の「文法入門２」または「講読入門２」を修得していることが必要である。

⑦　クラス指定の科目，及び履修登録前に実施した希望調査で，履修曜日・時限などを指定された科目は，それ以外では履修できない。

■　基礎的な英語力をつけたい

「General English １・２・３・４」（表現文化学科・総合歴史学科は必修科目）を履修する。

■　英話力をさらに高めたい

海外での語学研修「異文化コミュニケーション」に積極的に参加してほしい。

■　英語以外の語学（ドイツ語，フランス語，中国語，ハングル）に触れたい

文法入門と講読入門を併せて履修することが望ましい。

１年次　前期	○○語文法入門１，○○語講読入門１
後期	○○語文法入門２，○○語講読入門２
２年次以上	○○語中級１～４

Ⅱ　初等教育学科専門教育科目

1　授業科目表

授業科目	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	小一種	幼一種	保育士	履修上の注意
教育の歴史	選	2	1	前	講義	△	△		他学部開放
現代教育の諸問題	選	2	1	前	講義				他学部開放
教職論（＝教師論）	必	2	1	前	講義	○	○		
教育学概論	必	2	1	後	講義	○	○	○	
教育心理学	必	2	1	前	講義	○	○	○	
学習心理学	選	2	2	後	講義	△	△		
学校経営論	選	2	3	後	講義	△必	△必		
学校法制論	選	2	3	前	講義				
保育者論	選	2	1	後	講義			○	
保育原理Ⅰ	選	2	1	前	講義			○	
保育原理Ⅱ	選	2	2	前	講義			△	
社会的養護（＝養護原理）	選	2	1	後	講義			○	
社会福祉Ⅰ	選	2	1	前	講義			○	
社会福祉Ⅱ	選	2	3	前	講義			△	
相談援助	選	1	2	前	演習			○	
児童家庭福祉Ⅰ（＝児童福祉Ⅰ）	選	2	1	前	講義			○	
児童家庭福祉Ⅱ（＝児童福祉Ⅱ）	選	2	1	後	講義			△	
発達心理学	必	2	2	前	講義	○	○	△	
発達心理学演習	選	1	2	前	講義			○	
臨床心理学	選	2	2	前	講義			△	
子どもの保健Ⅰ（＝小児保健Ⅰ）	選	2	1	後	講義			○	
子どもの保健Ⅱ（＝小児保健Ⅱ）	選	2	2	前	講義			○	
子どもの保健Ⅲ（＝小児保健Ⅲ）	選	2	2	後	講義			△必	
子どもの保健Ⅳ（＝小児保健実習）	選	1	2	前	演習			○	
子どもの食と栄養Ⅰa･b（＝小児栄養Ⅰ）	選	1	2	前	演習			○	
子どもの食と栄養Ⅱa･b（＝小児栄養Ⅱ）	選	1	2	後	演習			○	
家庭支援論（＝家族援助論）	選	2	2	後	講義			○	
小学校教育課程論	選	2	2	後	講義	○			
幼稚園教育課程論	選	2	2	後	講義		○	○	
保育内容総論	選	2	2	前	演習		○	○	
幼児の健康a・b	選	1	2	後	演習		○	○	
幼児の人間関係a・b	選	1	2	前	演習		○	○	
幼児の環境a・b	選	1	2	前	演習		○	○	
幼児の言葉a・b	選	1	2	前	演習		○	○	

○印：必修，△印：選択，△必：選択必修

※太枠内は，資格取得に関する必修・選択・選択必修を表す。
※資格取得に関する履修方法は，各資格課程の頁を必ず参照すること。

授業科目	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	小一種	幼一種	保育士	履修上の注意
幼児の音楽表現Ⅰa・b	選	1	2	後	演習		○	○	
幼児の音楽表現Ⅱa・b	選	1	3	前	演習		○	△	
幼児の造形表現Ⅰa・b	選	1	2	前	演習		○	○	
幼児の造形表現Ⅱa・b	選	1	3	前	演習		○	△	
幼児の身体表現Ⅰa・b	選	1	2	後	演習		○	○	
幼児の身体表現Ⅱa・b	選	1	3	前	演習		○	△	
乳児保育Ⅰa・b	選	1	1	前	演習			○	
乳児保育Ⅱa・b	選	1	1	後	演習			○	
乳児保育Ⅲ	選	2	2	前	講義			△	
障がい児保育Ⅰ	選	1	1	後	演習			○	
障がい児保育Ⅱ	選	1	2	前	演習			○	
社会的養護内容a・b（＝養護内容）	選	1	2	後	演習			○	
保育相談支援	選	1	2	後	演習			○	
家庭管理	選	2	2	後	講義			△	
児童文化a・b	選	2	2	前	講義		○	△	
国語科教育法	選	2	2	後	講義	○			
算数科教育法	選	2	2	後	講義	○			
社会科教育法	選	2	3	前	講義	○			
理科教育法	選	2	3	前	講義	○			
生活科教育法	選	2	2	前	講義	○			
家庭科教育法	選	2	2	前	講義	○			
児童英語教育法	選	2	3	後	講義	○			小一種学内必修
音楽科教育法	選	2	2	前	講義	○			
図画工作科教育法	選	2	2	後	講義	○			
体育科教育法	選	2	2	前	講義	○			
道徳の指導法	選	2	2	後	講義	○			
特別活動の指導法	選	2	3	後	講義	○			
教育方法論	選	2	3	後	講義	○	○		
教育評価	選	2	3	集中	講義	△			
幼児理解とカウンセリング	選	2	2	後	講義		○		
教育相談	選	2	2	前	講義	○			
生徒・進路指導論	選	2	3	後	講義	○			
国語Ⅰa・b	選	2	1	前	講義	○	○	△	
国語Ⅱ	選	2	1	後	講義	△	△	△	
算数Ⅰ	選	2	2	前	講義	○	△		
算数Ⅱ	選	2	2	後	講義	△	△		

○印：必修，△印：選択，△必：選択必修

※太枠内は，資格取得に関する必修・選択・選択必修を表す。
※資格取得に関する履修方法は，各資格課程の頁を必ず参照すること。

授業科目	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	小一種	幼一種	保育士	履修上の注意
社会Ⅰ	選	2	2	後	講義	○			
社会Ⅱ	選	2	3	後	講義	△			
理科Ⅰ	選	2	2	後	講義	○			
理科Ⅱ	選	2	3	後	講義	△			
家庭	選	2	1	後	講義	○			
生活a・b	選	2	1	後	講義	○	○	△	
児童英語	選	2	3	前	講義	○			小一種学内必修
音楽Ⅰa・b・c	必	1	1	前	演習	○	○	○	
音楽Ⅱa～g	必	1	1	後	演習	○	○	○	
音楽Ⅲa～g	選	1	2	前	演習	△	○	○	
音楽Ⅳa・b	選	1	2	後	演習	△	○	○	
音楽Ⅴa～c	選	1	3	前	演習	△	△	△	
音楽Ⅵa～c	選	1	3	後	演習	△	△	△	
図画工作Ⅰa・b・c	必	1	1	前	演習	○	○	○	
図画工作Ⅱa・b・c	必	1	1	後	演習	○	○	○	
図画工作Ⅲ	選	1	3	前	演習	△	△	△	
図画工作Ⅳ	選	1	3	後	演習	△	△	△	
体育Ⅰa・b・c	必	1	1	前	演習	○	○	○	
体育Ⅱa・b・c	必	1	1	後	演習	○	○	○	
体育Ⅲ	選	1	3	前	演習	△	△	△	
体育Ⅳ	選	1	3	後	演習	△	△	△	
小学校教育実習	選	4	3	集中	実習	○			履修登録単位の上限(48単位)に含まない
小学校教育実習指導Ⅰ	選	1	3	前	実習	○			
小学校教育実習指導Ⅱ	選	1	3	後	実習	○			
介護等体験	選	1	3	集中	実習	○	△		
幼稚園教育実習	選	4	3	集中	実習		○		
幼稚園教育実習指導Ⅰa・b	選	1	3	前	実習		○		
幼稚園教育実習指導Ⅱa・b	選	1	3	後	実習		○		
保育所保育実習Ⅰ	選	2	2	集中	実習			○	
施設保育実習Ⅰ	選	2	2	集中	実習			○	
保育所保育実習Ⅱ	選	2	2	集中	実習			△必	
施設保育実習Ⅱ	選	2	2	集中	実習				
保育実習実践研究Ⅰ	選	1	2	前	演習			○	
保育実習実践研究Ⅱ	選	1	2	後	演習			○	
保育実習実践研究Ⅲ	選	1	2	前	演習			△必	
保育実習実践研究Ⅳ	選	1	2	集中	演習				
教育保育インターンシップ	選	1	1	集中	実習				

○印：必修，△印：選択，△必：選択必修

※太枠内は，資格取得に関する必修・選択・選択必修を表す。
※資格取得に関する履修方法は，各資格課程の頁を必ず参照すること。

授業科目	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	小一種	幼一種	保育士	履修上の注意
初年次教育Ⅰ	必	1	1	前	演習				
初年次教育Ⅱ	必	1	1	後	演習				
教職研究Ⅰ	選	1	3	後	演習				
教職研究Ⅱ	選	1	4	前	演習				
保育･教職実践演習（幼･小）	選	2	4	後	演習	○	○	○	
初等教育ゼミナールⅠ	必	2	3	前	演習				
初等教育ゼミナールⅡ	必	2	3	後	演習				
初等教育ゼミナールⅢ	必	2	4	前	演習				
初等教育ゼミナールⅣ	必	2	4	後	演習				
卒業研究	必	6	4	通	演習				

○印：必修，△印：選択，△必：選択必修

※太枠内は，資格取得に関する必修・選択・選択必修を表す。
※資格取得に関する履修方法は，各資格課程の頁を必ず参照すること。

2　初等教育学科履修モデル

１年次

自分がどのようなキャリア（進路）を目指すのかを十分に考え，その上で，自分が取得したい資格に必要な科目が卒業までにもれなく履修できるよう計画を立てること。特に，取得を目指す資格の必修科目のうち，１年次から履修できるものは，必ず１年次のうちに履修する。

また，自分の興味・関心に沿って総合教養教育科目や外国語科目などの選択科目を決定すること。

１年次には40単位以上の履修が望ましい。ただし，履修登録単位数の上限（48単位）を超えないよう注意すること。

なお，いずれの資格を取得するかにかかわらず，本学科における１年次での必修科目（選択必修も含む）およびクラス指定のある科目は以下のとおり。

	科　　目　　名	クラス指定	単　位
総合教養教育科目	人権の現代的課題	b	2
	日本国憲法	b	2
	情報処理演習１	w・x	2
	スポーツと健康／スポーツと社会		2
	スポーツ１	v・w・x	1
外国語教育科目	English Reading 1	w・x	1
	English Reading 2	w・x	1
学科専門教育科目	教職論（＝教師論）		2
	教育学概論		2
	教育心理学		2
	音楽Ⅰ	a・b・c	1
	音楽Ⅱ	a～g	1
	図画工作Ⅰ	a・b・c	1
	図画工作Ⅱ	a・b・c	1
	体育Ⅰ	a・b・c	1
	体育Ⅱ	a・b・c	1
	初年次教育Ⅰ		1
	初年次教育Ⅱ		1
	単　位　計		25

２年次

自分がどのようなキャリア（進路）を目指すのかをあらためて考え，その上で，自分が取得したい資格に必要な科目が卒業までにもれなく履修できるよう計画を立てること。特に，取得を目指す資格の必修科目のうち，２年次から履修できるものは，必ず２年次のうちに履修する。

また，自分の興味・関心に沿って総合教養教育科目や外国語科目などの選択科目を決定すること。

２年次には40単位以上の履修が望ましい。

３年次

自分がどのようなキャリア（進路）を目指すのかをあらためて考え，その上で，自分が取得したい資格に必要な科目が卒業までにもれなく履修できるよう計画を立てること。また，資格の必修科目ではないものであっても，専門性を高める上で必要な科目や，所属するゼミナールに関連する科目は，積極的に履修する。

３年次には40単位以上の履修が望ましい。

４年次

卒業研究が中心となる。

また，自分のキャリア（進路）における専門性の向上を目指し，関連する科目や所属するゼミナールに関連する科目を積極的に履修する。

３　卒業研究に関する規定及び注意事項（詳細は４月に掲示）

⑴　本登録

４年次生は，５月中旬の間に，所定の用紙に研究題目を記入し，教務課に提出すること。本登録をしなかった場合は，その年度での卒業研究の提出を認めない。

⑵　卒業研究提出

１月下旬（９：30～16：30）に教務課へ提出すること。

⑶　注意事項

・用紙　　Ａ４

・印刷　　１ページ800字（片面印刷）

・ページ設定

　・横書き

　・32字×25行（10.5ポイント）

　・余白の目安　左余白のみ４㎝，右・上・下３㎝

　・フッター　中央にページ数を挿入する。

・枚数　　Ａ４　20枚以上（実技発表を伴う卒業研究，および理科実験系の卒業研究は10枚以上）

・提出部数　２部（コピーは自費で行うこと）および，要旨　１部

　・要旨のページ設定例

　横書き，35字×30行（10.5ポイント），２枚以内，余白の目安　左・右・上・下３㎝，ページ数は打たないこと

・綴じ方　　学科指定のファイルを使用する。自費で購入すること。

・実技発表を伴う場合，その発表の仕方については，別途指示があるので，それに従うこと。

⑷　審査

卒業研究の審査は，４年次の２月上旬に実施する。

４　クラス担任

学　　年	クラス担任
１年	入学後決定
２年	１年次のクラス担任
３・４年	ゼミナールの担当者

初等教育学科カリキュラムツリー

	DP①	DP②	DP③	DP④
4年次	卒業研究			
3年次	学校経営論 学校法制論		教育方法論 生徒・進路指導論 （教育評価）	保育・教職実践演習 教職研究 小学校教育実習 介護等体験 幼稚園教育実習
2年次	学習心理学	発達心理学	小学校教育課程論 教育相談 小学校教科指導法 国語 音楽 図画工作 体育 など	幼稚園教育課程論 保育内容総論 保育5領域 （健康・人間関係・環境・言葉・表現）など 施設保育実習 保育所保育実習
1年次	現代教育の諸問題 教育の歴史	教育学概論 教育心理学 教職論 初年次教育	臨床心理学 子どもの食と栄養 こどもの保健など 社会福祉 児童家庭福祉 保育原理など 小学校教科	障がい児保育 乳児保育 教育保育インターンシップ
	小学校教育の基礎理論に関する科目	小学校・幼稚園教育・保育の基礎理論に関する科目	幼稚園教育・保育の基礎理論に関する科目 小学校教育の内容及び指導法に関する科目	小学校・幼稚園教育・保育の内容及び指導法に関する科目 幼稚園教育・保育の内容及び指導法に関する科目 教育・保育実習に関する科目

初等教育学科カリキュラムマップ

科　目　群	科目名(教育初等)	配当年次	授業形態	開講期	必選別	単位数	DP①	DP②	DP③	DP④
小学校教育の基礎理論に関する科目	教育の歴史	1	講　義	前	選	2	○			
	現代教育の諸問題	1	講　義	前	選	2	○			
	学習心理学	2	講　義	後	選	2	○			
	学校経営論	3	講　義	後	選	2	○		○	○
	学校法制論	3	講　義	前	選	2	○	○		
小学校・幼稚園教育・保育の基礎理論に関する科目	教職論（＝教師論）	1	講　義	前	必	2		○	○	○
	教育学概論	1	講　義	後	必	2	○			
	教育心理学	1	講　義	前	必	2	○			
	発達心理学	2	講　義	前	必	2	○			
	初年次教育Ⅰ	1	演　習	前	必	1	○			○
	初年次教育Ⅱ	1	演　習	後	必	1	○			○
幼稚園教育・保育の基礎理論に関する科目	社会福祉Ⅰ	1	講　義	前	選	2	○			
	児童家庭福祉Ⅰ（＝児童福祉Ⅰ）	1	講　義	前	選	2	○			
	保育原理Ⅰ	1	講　義	前	選	2	○			
	保育者論	1	講　義	後	選	2		○		
	保育原理Ⅱ	2	講　義	前	選	2		○	○	
	社会的養護（＝養護原理）	1	講　義	後	選	2	○			
	社会福祉Ⅱ	3	講　義	前	選	2	○			
	児童家庭福祉Ⅱ（＝児童福祉Ⅱ）	1	講　義	後	選	2	○			
	臨床心理学	2	講　義	前	選	2	○	○		
	子どもの保健Ⅰ（＝小児保健Ⅰ）	1	講　義	後	選	2	○	○		
	子どもの保健Ⅱ（＝小児保健Ⅱ）	2	講　義	前	選	2	○	○		
	子どもの保健Ⅲ（＝小児保健Ⅲ）	2	演　習	後	選	1	○	○		
	子どもの保健Ⅳ（＝小児保健実習）	2	講　義	前	選	2	○	○		
	子どもの食と栄養Ⅰa（＝小児栄養Ⅰ）	2	演　習	前	選	1	○	○		
	子どもの食と栄養Ⅰb（＝小児栄養Ⅰ）	2	演　習	前	選	1	○	○		
	子どもの食と栄養Ⅱa（＝小児栄養Ⅱ）	2	演　習	後	選	1	○	○		
	子どもの食と栄養Ⅱb（＝小児栄養Ⅱ）	2	演　習	後	選	1	○	○		
	家庭支援論（＝家族援助論）	2	講　義	後	選	2		○		
	発達心理学演習	2	演　習	前	選	1		○		
	相談援助	2	演　習	前	選	1		○		
小学校教育の内容及び指導法に関する科目	国語科教育法	2	講　義	後	選	2	○	○	○	
	算数科教育法	2	講　義	後	選	2	○	○		
	社会科教育法	3	講　義	前	選	2	○	○		
	理科教育法	3	講　義	前	選	2	○	○	○	
	生活科教育法	2	講　義	前	選	2	○	○	○	
	家庭科教育法	2	講　義	前	選	2	○	○		
	児童英語教育法	3	講　義	後	選	2	○	○		
	音楽科教育法	2	講　義	前	選	2	○	○		○

科　目　群	科目名(教育初等)	配当年次	授業形態	開講期	必選別	単位数	DP①	DP②	DP③	DP④
小学校教育の内容及び指導法に関する科目	図画工作科教育法	2	講　義	後	選	2	○	○	○	
	体育科教育法	2	講　義	前	選	2	○	○		
	道徳の指導法	2	講　義	後	選	2	○	○		
	特別活動の指導法	3	講　義	後	選	2	○	○		
	教育方法論	3	講　義	後	選	2	○	○		
	教育評価	3	講　義	集	選	2	○	○	○	
	教育相談	2	講　義	前	選	2	○	○	○	
	生徒・進路指導論	3	講　義	後	選	2	○	○	○	○
	算数Ⅰ	2	講　義	前	選	2	○	○		
	算数Ⅱ	2	講　義	後	選	2	○	○		
	社会Ⅰ	2	講　義	後	選	2	○			
	社会Ⅱ	3	講　義	後	選	2	○			
	理科Ⅰ	2	講　義	後	選	2	○	○		
	理科Ⅱ	3	講　義	後	選	2	○	○		
	家庭	1	講　義	後	選	2	○	○		
	生活	1	講　義	後	選	2	○			
	児童英語	3	講　義	前	選	2	○	○	○	
	小学校教育課程論	2	講　義	後	選	2	○	○		○
小学校・幼稚園教育・保育の内容及び指導法に関する科目	国語Ⅰ	1	講　義	前	選	2	○			○
	国語Ⅱ	1	講　義	後	選	2	○	○		○
	音楽Ⅰａ（ＡＢ）	1	演　習	前	必	1	○	○		
	音楽Ⅰｂ（ＣＤ）	1	演　習	前	必	1	○	○		
	音楽Ⅰｃ（ＥＦ）	1	演　習	前	必	1	○	○		
	音楽Ⅱａ（個人）	1	演　習	後	必	1	○	○		
	音楽Ⅱｂ（個人）	1	演　習	後	必	1	○	○		
	音楽Ⅱｃ（個人）	1	演　習	後	必	1	○	○		
	音楽Ⅱｄ	1	演　習	後	必	1	○	○		
	音楽Ⅱｅ	1	演　習	後	必	1	○	○		
	音楽Ⅱｆ	1	演　習	後	必	1	○	○		
	音楽Ⅱｇ	1	演　習	後	必	1	○	○		
	音楽Ⅲａ（個人）	2	演　習	前	選	1	○	○		
	音楽Ⅲｂ（個人）	2	演　習	前	選	1	○	○		
	音楽Ⅲｃ（個人）	2	演　習	前	選	1	○	○		
	音楽Ⅲｄ	2	演　習	前	選	1	○	○		
	音楽Ⅲｅ（個人）	2	演　習	前	選	1	○	○		
	音楽Ⅲｆ	2	演　習	前	選	1	○	○		
	音楽Ⅲｇ	2	演　習	前	選	1	○	○		
	音楽Ⅳａ	2	演　習	後	選	1	○	○		
	音楽Ⅳｂ	2	演　習	後	選	1	○	○		

科　目　群	科目名(教育初等)	配当年次	授業形態	開講期	必選別	単位数	DP①	DP②	DP③	DP④
小学校・幼稚園教育・保育の内容及び指導法に関する科目	音楽Ｖａ（個人）	3	演　習	前	選	1	○	○		
	音楽Ｖｂ（個人）	3	演　習	前	選	1	○	○		
	音楽Ｖｃ	3	演　習	前	選	1	○	○		
	音楽Ⅵａ（個人）	3	演　習	後	選	1	○	○		
	音楽Ⅵｂ	3	演　習	後	選	1	○	○		
	音楽Ⅵｃ	3	演　習	後	選	1	○	○		
	図画工作Ｉａ（ＡＢ）	1	演　習	前	必	1	○	○		
	図画工作Ｉｂ（ＣＤ）	1	演　習	前	必	1	○	○		
	図画工作Ｉｃ（ＥＦ）	1	演　習	前	必	1	○	○		
	図画工作Ⅱａ（ＡＢ）	1	演　習	後	必	1	○	○		
	図画工作Ⅱｂ（ＣＤ）	1	演　習	後	必	1	○	○		
	図画工作Ⅱｃ（ＥＦ）	1	演　習	後	必	1	○	○		
	図画工作Ⅲ	3	演　習	前	選	1	○	○		
	図画工作Ⅳ	3	演　習	後	選	1	○	○		
	体育Ｉａ（ＡＢ）	1	演　習	前	必	1	○	○		
	体育Ｉｂ（ＣＤ）	1	演　習	前	必	1	○	○		
	体育Ｉｃ（ＥＦ）	1	演　習	前	必	1	○	○		
	体育Ⅱａ（ＡＢ）	1	演　習	後	必	1	○	○		
	体育Ⅱｂ（ＣＤ）	1	演　習	後	必	1	○	○		
	体育Ⅱｃ（ＥＦ）	1	演　習	後	必	1	○	○		
	体育Ⅲ	3	演　習	前	選	1	○	○	○	○
	体育Ⅳ	3	演　習	後	選	1	○	○	○	○
幼稚園教育・保育の内容及び指導法に関する科目	保育内容総論	2	講　義	前	選	2	○	○	○	○
	幼児の健康ａ	2	演　習	後	選	1	○	○	○	○
	幼児の健康ｂ	2	演　習	後	選	1	○	○	○	○
	幼児の人間関係ａ	2	演　習	前	選	1	○	○		○
	幼児の人間関係ｂ	2	演　習	前	選	1	○	○		○
	幼児の環境ａ（ＡＢＣ）	2	演　習	前	選	1	○	○	○	
	幼児の環境ｂ（ＤＥＦ）	2	演　習	前	選	1	○	○	○	
	幼児の言葉ａ	2	演　習	前	選	1	○	○	○	
	幼児の言葉ｂ	2	演　習	前	選	1	○	○	○	
	幼児の音楽表現Ｉａ(ＡＢＣ)	2	演　習	後	選	1	○	○		○
	幼児の音楽表現Ｉｂ(ＤＥＦ)	2	演　習	後	選	1	○	○		○
	幼児の音楽表現Ⅱａ(ＡＢＣ)	3	演　習	前	選	1	○	○		○
	幼児の音楽表現Ⅱｂ(ＤＥＦ)	3	演　習	前	選	1	○	○		○
	幼児の造形表現Ｉａ(ＡＢＣ)	2	演　習	前	選	1	○	○	○	
	幼児の造形表現Ｉｂ(ＤＥＦ)	2	演　習	前	選	1	○	○	○	
	幼児の造形表現Ⅱａ(ＡＢＣ)	3	演　習	前	選	1	○	○	○	
	幼児の造形表現Ⅱｂ(ＤＥＦ)	3	演　習	前	選	1	○	○	○	

科　目　群	科目名(教育初等)	配当年次	授業形態	開講期	必選別	単位数	DP①	DP②	DP③	DP④
幼稚園教育・保育の内容及び指導法に関する科目	幼児の身体表現Ⅰａ(ＡＢ)	2	演　習	後	選	1	○	○	○	
	幼児の身体表現Ⅰｂ(ＣＤ)	2	演　習	後	選	1	○	○	○	
	幼児の身体表現Ⅱａ	3	演　習	前	選	1	○	○	○	
	幼児の身体表現Ⅱｂ	3	演　習	前	選	1	○	○	○	
	乳児保育Ⅰａ（ＡＢＣ）	1	演　習	前	選	1	○	○		○
	乳児保育Ⅰｂ（ＤＥＦ）	1	演　習	前	選	1	○	○		○
	乳児保育Ⅱａ（ＡＢＣ）	1	演　習	後	選	1	○	○	○	○
	乳児保育Ⅱｂ（ＤＥＦ）	1	演　習	後	選	1	○	○	○	○
	乳児保育Ⅲ	2	講　義	前	選	2	○	○	○	○
	障がい児保育Ⅰ	1	演　習	後	選	1	○	○		
	社会的養護内容ａ(＝養護内容)	2	演　習	後	選	1	○	○		
	社会的養護内容ｂ(＝養護内容)	2	演　習	後	選	1	○	○		
	家庭管理	2	講　義	後	選	2		○		
	児童文化ａ	2	講　義	前	選	2	○	○		
	児童文化ｂ	2	講　義	前	選	2	○	○		
	幼稚園教育課程論	2	講　義	後	選	2	○	○	○	○
	障がい児保育Ⅱ	2	演　習	前	選	1				
	保育相談支援	2	演　習	後	選	1		○		
	幼児理解とカウンセリング	2	講　義	後	選	2				
教育・保育実習に関する科目	小学校教育実習	3	実　習	集	選	4	○	○	○	○
	小学校教育実習指導Ⅰ	3	演　習	前	選	1	○	○	○	○
	小学校教育実習指導Ⅱ	3	演　習	後	選	1	○	○	○	○
	介護等体験	3	実　習	集	選	1	○	○	○	○
	幼稚園教育実習	3	実　習	集	選	4	○	○	○	○
	幼稚園教育実習指導Ⅰａ	3	演　習	前	選	1	○	○	○	○
	幼稚園教育実習指導Ⅰｂ	3	演　習	前	選	1	○	○	○	○
	幼稚園教育実習指導Ⅱａ	3	演　習	後	選	1	○	○	○	○
	幼稚園教育実習指導Ⅱｂ	3	演　習	後	選	1	○	○	○	○
	保育所保育実習Ⅰ	2	実　習	集	選	2	○	○	○	○
	施設保育実習Ⅰ	2	実　習	集	選	2		○		○
	保育所保育実習Ⅱ	2	実　習	集	選	2	○	○	○	○
	施設保育実習Ⅱ	2	実　習	集	選	2		○		○
	保育実習実践研究Ⅰ	2	演　習	前	選	1	○	○	○	○
	保育実習実践研究Ⅱ	2	演　習	後	選	1	○	○	○	○
	教育保育インターンシップ	1	実　習	集	選	1	○	○	○	○
	保育実習実践研究Ⅲ	2	演　習	前	選	1	○	○	○	○
	保育実習実践研究Ⅳ	2	演　習	集	選	1	○	○	○	○
	教職研究Ⅰ	3	演　習	後	選	1	○	○	○	○

科　目　群	科目名(教育初等)	配当年次	授業形態	開講期	必選別	単位数	DP①	DP②	DP③	DP④
教育・保育実習に関する科目	教職研究Ⅱ	4	演　習	前	選	1	○	○	○	○
	保育・教職実践演習(幼・小)	4	演　習	後	選	2		○	○	
卒業研究に関する科目	初等教育ゼミナールⅠ	3	演　習	前	必	2	○	○	○	○
	初等教育ゼミナールⅡ	3	演　習	後	必	2	○	○	○	○
	初等教育ゼミナールⅢ	4	演　習	前	必	2	○	○	○	○
	初等教育ゼミナールⅣ	4	演　習	後	必	2	○	○	○	○
	卒業研究	4	演　習	集	必	6				

Ⅲ　教育心理学科専門教育科目

1　授業科目表（2015年度以降の入学生）

授業科目	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	高一種	中一種	養一種	特支一種	認定心理士	履修上の注意
教育学概論	必	2	1	後	講義	○	○	○			
教職論（＝教師論）	必	2	1	前	講義	○	○	○			
教育の歴史	選	2	1	前	講義						
現代教育の諸問題	選	2	1	前	講義						
心理学概論	必	2	1	前	講義	△	△	△		○	
教育心理学	必	2	1	前	講義	○	○	○		○	
学習心理学	選	2	2	後	講義					△必	
学校制度論	選	2	3	前	講義	○	○	○			
カウンセリング概論	選	2	1	前	講義					△必	
カウンセリング演習	選	1	2	前	演習					△必	
家族心理学	選	2	2	後	講義					△必	
心理学研究法（＝教育心理学研究法）	選	2	3	前	講義					○	認定心理士申請資格取得希望者に限る（人数制限あり）
心理学実験実習（＝教育心理学実験実習）	選	2	3	後	実習					○	
心理検査法実習	選	2	3	前	実習					○	
社会心理学	選	2	2	前	講義					△必	
心理統計法Ⅰa・b	選	2	1	後	講義					○	認定心理士申請資格取得希望者に限る（人数制限あり）
心理統計法Ⅱ	選	2	2	前	講義					△	
心理療法概論	選	2	1	後	講義					△必	
心理療法演習	選	2	3	後	演習					△必	
人格心理学	選	2	1	後	講義					△必	
生理心理学	選	2	3	後	講義					△必	
動物心理学	選	2	3	集中	講義					△必	
認知心理学	選	2	2	前	講義					△必	認定心理士申請資格取得希望者に限る（人数制限あり）
発達心理学	必	2	2	後	講義	△	△	△		△必	
臨床心理学	選	2	2	前	講義					△必	
精神医学概論	選	2	3	前	講義					△必	
特別支援教育総論	必	2	1	後	講義				○		
特別支援教育の歴史	選	2	1	前	講義				△		
知的障害の心理学	選	2	1	後	講義				○	△必	
知的障害児の生理・病理	選	1	1	後	講義				○		
肢体不自由児の心理	選	1	1	集中	講義				○	△必	
肢体不自由児の生理・病理	選	1	2	前集中	講義				○		
病弱児の心理	選	1	2	集中	講義				○	△必	
病弱児の生理・病理	選	1	2	集中	講義				○		
障害児心理学各論	選	2	2	後	講義				△必		
知的障害児教育Ⅰ	選	2	2	前	講義				○		

○印：必修，△印：選択，△必：選択必修

※太枠内は，資格取得に関する必修・選択・選択必修を表す。
※資格取得に関する履修方法は，各資格課程の頁を必ず参照すること。

授業科目	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	高一種	中一種	養一種	特支一種	認定心理士	履修上の注意
知的障害児教育Ⅱ	選	2	2	後	講義				○		
肢体不自由児教育	選	2	3	前	講義				○		
病弱児教育	選	2	3	後	講義				○		
特別支援教育各論	選	2	2	後	講義				△必		
発達障害の心理学	選	2	2	前	講義				○	△必	
発達障害児の生理・病理	選	1	1	後	講義				○		
重複障害児の心理	選	1	2	集中	講義				○	△必	
重複障害児の生理・病理	選	1	2	前	講義				○		
視覚障害児教育総論	選	1	2	後	講義				○		
聴覚障害児教育総論	選	1	2	集中	講義				○		
発達障害児教育	選	2	3	前	講義				○		
重複障害児教育	選	2	3	前	講義				○		
特別支援教育実習Ⅰ(事前･事後指導)	選	1	3	集中	実習				○		履修登録単位の上限(48単位)に含まない
特別支援教育実習Ⅱ	選	2	3	集中	実習				○		履修登録単位の上限(48単位)に含まない
教育課程論	選	2	2	前	講義	○	○	○			
道徳の指導法	選	2	2	後	講義	△	○	○			
特別活動の指導法	選	2	3	集中	講義	○	○	○			
教育方法論	選	2	3	前	講義	○	○	○			
生徒・進路指導論	選	2	3	後	講義	○	○				
生徒指導論	選	2	3	前	講義			○			
教育相談	選	2	2	前	講義	○	○	○		△必	
養護実習指導	選	1	3	前	演習			○			履修登録単位の上限(48単位)に含まない
養護実習	選	4	3	集中	実習			○			履修登録単位の上限(48単位)に含まない
教職実践演習（養護）	選	2	4	後	演習			○			
教科教育研究（保健）Ⅰ	選	2	2	後	講義	○	○				
教科教育研究（保健）Ⅱ	選	2	3	前	講義	○	○				
教科教育研究（保健）Ⅲ	選	2	3	後	講義	△	○				
教科教育研究（保健）Ⅳ	選	2	4	前	講義	△	△				2017年度休講
事前・事後指導	選	1	4	集中	実習	○	○				履修登録単位の上限(48単位)に含まない
教育実習Ⅰ	選	2	4	集中	実習	○	○				履修登録単位の上限(48単位)に含まない
教育実習Ⅱ	選	2	4	集中	実習	△	○				履修登録単位の上限(48単位)に含まない
教職実践演習（中･高）	選	2	4	後	演習	○	○				
衛生学	選	2	2	前	講義	○	○	○			
公衆衛生学	選	2	3	後	講義	○	○	○			
学校保健	必	2	1	後	講義	○	○	○			
健康教育論	選	2	3	前	講義	△	△	○			2017年度休講
養護学概論Ⅰ	選	2	2	前	講義			○			
養護学概論Ⅱ	選	2	2	後	講義			△			

○印：必修，△印：選択，△必：選択必修

※太枠内は，資格取得に関する必修・選択・選択必修を表す。
※資格取得に関する履修方法は，各資格課程の頁を必ず参照すること。

教育心理

授業科目	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	高一種	中一種	養一種	特支一種	認定心理士	履修上の注意
健康相談活動	選	2	3	後	講義	○	○	○			
栄養学	選	1	1	後	講義	○	○	○			
食品学	選	1	1	後	講義	○	○	○			
食育論	選	2	4	前	講義						
解剖学	選	2	1	後	講義	○	○	○			
生理学	選	2	2	前	講義	○	○	○			
微生物学	選	2	2	前	講義	△	△				
免疫学	選	2	2	後	講義			△必			
薬理概論	選	2	3	前	講義						
子どもの病気と薬	選	2	3	後	講義			△			
精神保健	選	2	2	後	講義	○	○	○		△必	
小児精神医学	選	2	3	後	講義	○	○	△		△必	
看護学概論	選	2	1	前	講義	△	△	○			
学校看護学演習	選	1	1	後	演習	△	△	○			養護教諭免許状取得希望者に限る
フィジカル・アセスメントa・b	選	1	2	前	演習			○			
看護学臨床実習指導	選	1	4		実習			○			履修登録単位の上限(48単位)に含まない
看護学臨床実習	選	2	4	集中	実習			○			
学校救急処置	選	2	2	後	講義	○	○	○			
学校救急処置演習	選	1	3	前	演習	△	△	○			
内科学	選	2	2	後	講義			○			
耳鼻咽喉科学	選	1	3	集中	講義			○			
眼科学	選	1	3	集中	講義			○			
外科・整形外科学	選	1	2	集中	講義			○			
歯科保健	選	1	3	前	講義			○			
小児看護学(小児保健)	選	2	2	前	講義	○	○	△			
子どもの身体運動と健康	選	2	1	後	講義						
初年次教育Ⅰ	必	1	1	前	演習						
初年次教育Ⅱ	必	1	1	後	演習						
ボランティア体験Ⅰ	選	1	1	前	演習						履修登録単位の上限(48単位)に含まない
ボランティア体験Ⅱ	選	1	2	集中	演習						
教職研究Ⅰ	選	1	3	後	演習						
教職研究Ⅱ	選	1	4	前	演習						
教育心理ゼミナールⅠ	必	2	3	前	演習						
教育心理ゼミナールⅡ	必	2	3	後	演習						
教育心理ゼミナールⅢ	必	2	4	前	演習						
教育心理ゼミナールⅣ	必	2	4	後	演習						
卒業研究	必	6	4	通	演習					△	

○印：必修，△印：選択，△必：選択必修

※太枠内は，資格取得に関する必修・選択・選択必修を表す。
※資格取得に関する履修方法は，各資格課程の頁を必ず参照すること。

Ⅲ　教育心理学科専門教育科目

1　授業科目表（2014～2011年度生）

授業科目	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	高一種	中一種	養一種	特支一種	認定心理士	履修上の注意
教育学概論	必	2	1	後	講義	○	○	○			
教師論	必	2	1	前	講義	○	○	○			
教育の歴史	選	2	1	前	講義						
現代教育の諸問題	選	2	1	前	講義						
心理学概論	必	2	1	前	講義	△	△	△		○	
心理学史	選	2	1	後	講義					○	
教育心理学	必	2	1	前	講義	○	○	○		○	
学習心理学	選	2	2	後	講義					△必	
学校制度論	選	2	3	前	講義	○	○	○			
カウンセリング概論	選	2	1	前	講義					△必	
カウンセリング演習Ⅰ	選	1	2	前	演習					△必	
カウンセリング演習Ⅱ	選	1	2	後	演習					△必	2017年度休講
カウンセリング実習	選	1	3	後	実習					△必	
コミュニケーションの心理学	選	2	2	後	講義					△必	
家族心理学	選	2	2	後	講義					△必	
教育心理学研究法	選	2	3	前	講義					○	認定心理士申請資格取得希望者に限る（人数制限あり）
教育心理学実験実習	選	2	3	後	実習					○	
心理検査法実習	選	2	4	前	実習					○	
教育心理学特講	選	2	4	前	講義					△必	
社会心理学	選	2	2	前	講義					△必	
心理統計法Ⅰa・b	選	2	2	後	講義					○	認定心理士申請資格取得希望者に限る（人数制限あり）
心理統計法Ⅱ	選	2	2	前	講義					△	
心理療法概論	選	2	1	後	講義					△必	
心理療法各論	選	2	2	集中	講義					△必	2017年度休講
心理療法演習Ⅰ	選	2	3	前	演習					△必	2017年度休講
心理療法演習Ⅱ	選	2	3	後	演習					△必	
人格心理学	選	2	1	後	講義					△必	
生理心理学	選	2	3	後	講義					△必	
動物心理学	選	2	3	集中	講義					△必	
認知心理学	選	2	2	前	講義					△必	認定心理士申請資格取得希望者に限る（人数制限あり）
発達心理学Ⅰ	必	2	2	後	講義	△	△	△		△必	
発達心理学Ⅱ	選	2	2	後	講義	△	△	△		△必	2017年度休講
発達心理学特講	選	2	4	後	講義					△必	
臨床心理学	選	2	2	前	講義					△必	
臨床心理学特講	選	2	4	前	講義					△必	
精神医学概論	選	2	3	前	講義					△必	

○印：必修，△印：選択，△必：選択必修

※太枠内は，資格取得に関する必修・選択・選択必修を表す。
※資格取得に関する履修方法は，各資格課程の頁を必ず参照すること。

授業科目	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	高一種	中一種	養一種	特支一種	認定心理士	履修上の注意
特別支援教育総論	必	2	1	後	講義				○		
特別支援教育の歴史	選	2	1	前	講義				△		
知的障害の心理学	選	2	1	後	講義				○	△必	
知的障害児の生理・病理	選	1	1	後	講義				○		
肢体不自由児の心理	選	1	2	集中	講義				○	△必	
肢体不自由児の生理・病理	選	1	2	前集中	講義				○		
病弱児の心理	選	1	2	集中	講義				○	△必	
病弱児の生理・病理	選	1	2	集中	講義				○		
障害児心理学各論	選	2	2	後	講義				△必		
知的障害児教育Ⅰ	選	2	2	前	講義				○		
知的障害児教育Ⅱ	選	2	2	後	講義				○		
肢体不自由児教育	選	2	3	前	講義				○		
病弱児教育	選	2	3	後	講義				○		
特別支援教育各論	選	2	2	後	講義				△必		
発達障害の心理学	選	2	1	前	講義				○	△必	
発達障害児の生理・病理	選	1	1	後	講義				○		
重複障害児の心理	選	1	2	集中	講義				○	△必	
重複障害児の生理・病理	選	1	2	前	講義				○		
視覚障害児教育総論	選	1	2	後	講義				○		
聴覚障害児教育総論	選	1	2	集中	講義				○		
発達障害児教育	選	2	3	前	講義				○		
重複障害児教育	選	2	3	前	講義				○		
特別支援教育実習Ⅰ(事前･事後指導)	選	1	3	集中	実習				○		履修登録単位の上限(48単位)に含まない
特別支援教育実習Ⅱ	選	2	3	集中	実習				○		
教育課程論	選	2	2	前	講義	○	○	○			
道徳の指導法	選	2	2	後	講義	△	○	○			
特別活動の指導法	選	2	3	集中	講義	○	○	○			
教育方法論	選	2	3	前	講義	○	○	○			
生徒・進路指導論	選	2	3	後	講義	○	○				
生徒指導論	選	2	3	前	講義			○			
教育相談	選	2	2	前	講義	○	○	○		△必	
養護実習指導	選	1	3	前	演習			○			履修登録単位の上限(48単位)に含まない
養護実習	選	4	3	集中	実習			○			
教職実践演習（養護）	選	2	4	後	演習			○			
教科教育研究（保健）Ⅰ	選	2	2	後	講義	○	○				
教科教育研究（保健）Ⅱ	選	2	2	前	講義	○	○				
教科教育研究（保健）Ⅲ	選	2	3	後	講義	△	○				
教科教育研究（保健）Ⅳ	選	2	3	前	講義	△	△				2017年度休講

○印：必修，△印：選択，△必：選択必修

※太枠内は，資格取得に関する必修・選択・選択必修を表す。
※資格取得に関する履修方法は，各資格課程の頁を必ず参照すること。

授業科目	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	高一種	中一種	養一種	特支一種	認定心理士	履修上の注意
事前・事後指導	選	1	4	集中	実習	○	○				履修登録単位の上限(48単位)に含まない
教育実習Ⅰ	選	2	4	集中	実習	○	○				
教育実習Ⅱ	選	2	4	集中	実習	△	○				
教職実践演習（中･高）	選	2	4	後	演習	○	○				
衛生学	選	2	2	前	講義	○	○	○			
公衆衛生学	選	2	3	後	講義	○	○	○			
学校保健	選	2	1	後	講義	○	○	○			
健康教育論	選	2	3	前	講義	△	△	△			
養護学概論Ⅰ	必	2	1	前	講義			○			
養護学概論Ⅱ	選	2	1	後	講義			△			
健康相談活動	選	2	2	後	講義	○	○	○			
栄養学	選	1	2	後	講義	○	○	○			
食品学	選	1	2	後	講義	○	○	○			
食育論	選	2	4	前	講義						
解剖学	選	2	2	前	講義	○	○	○			
生理学	選	2	2	後	講義	○	○	○			
微生物学	選	2	1	後	講義	△	△				
免疫学	選	2	2	後	講義			△必			
薬理概論	選	2	3	前	講義						
子どもの病気と薬	選	2	4	後	講義			△			
精神保健	選	2	2	後	講義	○	○	○		△必	
小児精神医学	選	2	3	後	講義	○	○	△		△必	
看護学概論	選	2	1	前	講義	△	△	○			
学校看護学演習	選	1	1	後	演習	△	△	○			養護教諭免許状取得希望者に限る
フィジカル･アセスメントａ・ｂ	選	1	2	前	演習			○			
看護学臨床実習指導	選	1	3	集中	実習			○			履修登録単位の上限(48単位)に含まない
看護学臨床実習	選	2	3	集中	実習			○			
学校救急処置	選	2	2	後	講義	○	○	○			
学校救急処置演習	選	1	3	前	演習	△	△	○			
小児看護学(小児保健)	選	2	2	前	講義	○	○	△			
ダンスの社会学	選	2	2	後	講義						2017年度休講
子どもの身体運動と健康	選	2	1	後	講義						
心と身体のフィットネス	選	1	3	後	演習						
初年次教育Ⅰ	必	1	1	前	演習						
初年次教育Ⅱ	必	1	1	後	演習						
ボランティア体験Ⅰ	選	1	1	前	演習						履修登録単位の上限(48単位)に含まない
ボランティア体験Ⅱ	選	1	2	集中	演習						
教職研究Ⅰ	選	1	3	後	演習						

○印：必修，△印：選択，△必：選択必修

※太枠内は，資格取得に関する必修・選択・選択必修を表す。
※資格取得に関する履修方法は，各資格課程の頁を必ず参照すること。

授業科目	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	高一種	中一種	養一種	特支一種	認定心理士	履修上の注意
教職研究Ⅱ	選	1	4	前	演習						
教育心理ゼミナールⅠ	必	2	3	前	演習						
教育心理ゼミナールⅡ	必	2	3	後	演習						
教育心理ゼミナールⅢ	必	2	4	前	演習						
教育心理ゼミナールⅣ	必	2	4	後	演習						
卒業研究	必	6	4	通	演習					△	

○印：必修，△印：選択，△必：選択必修

※太枠内は，資格取得に関する必修・選択・選択必修を表す。
※資格取得に関する履修方法は，各資格課程の頁を必ず参照すること。

２　教育心理学科履修モデル

１年次

自分がどのようなキャリア（進路）を目指すのかを十分に考え，その上で，自分が取得したい資格に必要な科目が卒業までにもれなく履修できるよう計画を立てること。特に，取得を目指す資格の必修科目のうち，１年次から履修できるものは，必ず１年次のうちに履修する。

また，自分の興味・関心に沿って総合教養教育科目や外国語科目などの選択科目を決定すること。

１年次には40単位以上の履修が望ましい。ただし，履修登録単位数の上限（48単位）を超えないよう注意すること。

なお，いずれの資格を取得するかにかかわらず，本学科における１年次での必修科目（選択必修も含む）およびクラス指定のある科目は以下のとおり。

	科　　目　　名	クラス指定	単　位
総合教養教育科目	人権の現代的課題	b	2
	日本国憲法	b	2
	情報処理演習１	y・z	2
	スポーツと健康／スポーツと社会		2
	スポーツ１	y・z	1
外国語教育科目	English Reading 1	y・z	1
	English Reading 2	y・z	1
学科専門教育科目	教育学概論		2
	教職論（＝教師論）		2
	心理学概論		2
	教育心理学		2
	特別支援教育総論		2
	学校保健		2
	初年次教育Ⅰ		1
	初年次教育Ⅱ		1
	単　位　計		25

２年次

自分がどのようなキャリア（進路）を目指すのかをあらためて考え，その上で，自分が取得したい資格に必要な科目が卒業までにもれなく履修できるよう計画を立てること。特に，取得を目指す資格の必修科目のうち，２年次から履修できるものは，必ず２年次のうちに履修する。

また，自分の興味・関心に沿って総合教養教育科目や外国語科目などの選択科目を決定すること。

２年次には40単位以上の履修が望ましい。

３年次

自分がどのようなキャリア（進路）を目指すのかをあらためて考え，その上で，自分が取得したい資格に必要な科目が卒業までにもれなく履修できるよう計画を立てること。また，資格の必修科目ではないものであっても，専門性を高める上で必要な科目や，所属するゼミナールに関連する科目は，積極的に履修する。

３年次には40単位以上の履修が望ましい。

４年次

卒業研究が中心となる。

また，自分のキャリア（進路）における専門性の向上を目指し，関連する科目や所属するゼミナールに関連する科目を積極的に履修する。

３　卒業研究に関する規定及び注意事項（詳細は４月に掲示）

⑴　本登録

４年次生は，５月中旬の間に，所定の用紙に研究題目を記入し，教務課に提出すること。本登録をしなかった場合はその年度での卒業研究の提出を認めない。

⑵　卒業研究提出

12月下旬（９：30～16：30）に教務課へ提出すること。

⑶　注意事項

・用紙　　：Ａ４サイズ

・ページ設定：横書き

卒業研究論文：

32文字×25行（10.5ポイント），余白左４㎝，右上下３㎝

フッター中央にページを挿入する。

要旨：

35文字×30行（10.5ポイント），余白上下左右３㎝，

ページは打たないこと。

・枚数　　：卒業研究論文20ページ以上，要旨２ページ

・綴じ方　　：学科指定のファイルを自費で購入し，使用すること。

購入した学科指定バインダーに表紙，要旨，論文の順に綴じること。

・提出部数　：２部

なお，卒業研究論文ＰＤＦおよび要旨ＰＤＦをweb classに提出すること。

⑷　審査

卒業研究の審査は，４年次の２月上旬に実施する。

4　クラス担任

学　　年	クラス担任
１年	入学後決定
２年	１年次のクラス担任
３・４年	ゼミナールの担当者

学年	総合科目群	教職科目群	特別支援教育科目群	心理学科目群	養護・保健科目群	教育実践科目群
	DP-5 DP-4 DP-2	DP-4 DP-2 DP-1	DP-3 DP-2 DP-1	DP-2 DP-1	DP-4 DP-3 DP-2 DP-1	DP-4 DP-3 DP-2 DP-1	DP-5 DP-4 DP-3 DP-2
4	卒業研究 教育心理ゼミナールIII・IV				動物心理学 生理心理学 臨床心理学特講 発達心理学特講 心理検査法実習 教育心理学特講	子どもの病気と薬 食育論	教職実践演習（中・高） 教職実践演習（養護） 教職研究II 教育実習I・II 事前・事後指導
3	教育心理ゼミナールI・II	生徒・進路指導論 生徒指導論 教育方法論 学校制度論 特別活動の指導法	発達障害児教育 病弱児教育 重複障害児教育		教育心理学実験実習 教育心理学研究法 カウンセリング実習 心理療法演習I・II	看護学臨床実習指導 看護学臨床実習 学校救急処置演習 心と身体のフィットネス 精神医学概論 小児精神医学 健康教育論 公衆衛生学 薬理概論	教職研究I 特別支援教育実習II 特別支援教育実習I 養護実習 養護実習指導 教科教育研究（保健）III・IV
2	ボランティア体験II	道徳の指導法 教育相談 教育課程論	知的障害児教育I・II 視覚障害児教育 聴覚障害児教育 特別支援教育各論 病弱児の生理・病理 重複障害児の生理・病理 肢体不自由児の生理・病理	障害児心理学各論 病弱児の心理 重複障害児の心理 肢体不自由児の心理	カウンセリング演習II 心理療法各論 家族心理学 心理統計法I・II 臨床心理学 カウンセリング演習I コミュニケーションの心理学 社会心理学 学習心理学 認知心理学 発達心理学I・II	精神保健 小児看護学（小児保健） ダンスの社会学 健康相談活動 生理学 学校救急処置 解剖学 衛生学 栄養学・食品学 免疫学 フィジカル・アセスメント	教科教育研究（保健）I・II
1	ボランティア体験I 初年次教育I・II	教育の歴史 現代教育の諸問題 教育学概論 教職論（＝教師論）	肢体不自由児教育 発達障害児の生理・病理 知的障害児の生理・病理 特別支援教育総論 特別支援教育の歴史	発達障害の心理学 知的障害の心理学	心理療法概論 人格心理学 心理学史 教育心理学 心理学概論 カウンセリング概論	子どもの身体運動と健康 微生物学 学校保健 学校看護学演習 養護学概論I・II 看護学概論	

教育心理学科専門科目カリキュラムマップ（2015年度～）

教育心理学科ディプローマポリシー

DP1	教育心理，養護教育，特別支援教育に関した幅広い専門知識を修得し，積極的に活用できる。（知識・理解）
DP2	知識・経験を総合して，子どもの心と身体の状態を的確に把握し，適切に対応できる。（思考・判断）
DP3	教育心理学・養護教育・特別支援教育を通して，子どもの心身の発達・健康を支えケアすることができる。（技能）
DP4	チームワークにおいて，主体性と協同性を発揮できる。（興味・関心・態度）
DP5	子どもを支えケアする人材として，常に向上心を持ち，自律的に学習を進めることができる。（興味・関心・態度）

科　目　名	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
教育学概論	必	2	1	後	講　義	○				
教職論（＝教師論）	必	2	1	前	講　義	○				
教育の歴史	選	2	1	前	講　義	○				
現代教育の諸問題	選	2	1	後	講　義	○				
心理学概論	必	2	1	前	講　義	○	○			
教育心理学	必	2	1	前	講　義	○	○			
学習心理学	選	2	2	後	講　義	○				
学校制度論	選	2	3	前	講　義	○			○	
カウンセリング概論	選	2	1	前	講　義	○				
カウンセリング演習	選	1	2	前	演　習			○		
家族心理学	選	2	2	後	講　義	○	○			
心理学研究法（＝教育心理学研究法）	選	2	3	前	講　義		○	○		○
心理学実験実習（＝教育心理学実験実習）	選	2	3	後	実　習		○	○	○	
心理検査法実習	選	2	3	前	実　習			○	○	
社会心理学	選	2	2	前	講　義	○			○	
心理統計法Ⅰ	選	2	2	前	講　義		○	○		
心理統計法Ⅱ	選	2	2	後	講　義		○	○		
心理療法概論	選	2	1	後	講　義	○				
心理療法演習	選	2	3	後	演　習		○	○		
人格心理学	選	2	1	後	講　義	○				
生理心理学	選	2	3	後	講　義	○				
動物心理学	選	2	3	集中	講　義	○				
認知心理学	選	2	2	前	講　義	○				
発達心理学	必	2	2	後	講　義	○	○	○		
臨床心理学	選	2	2	前	講　義	○				
精神医学概論	選	2	3	後	講　義	○	○			
特別支援教育総論	必	2	1	後	講　義	○	○	○		
特別支援教育の歴史	選	2	1	前	講　義	○				○
知的障害の心理学	選	2	1	後	講　義	○	○			
知的障害児の生理・病理	選	1	1	後	講　義	○	○			
肢体不自由児の心理	選	1	1	集中	講　義	○	○			
肢体不自由児の生理・病理	選	1	2	前･集中	講　義		○	○		
病弱児の心理	選	1	2	集中	講　義	○	○			
病弱児の生理・病理	選	1	2	集中	講　義		○	○		
障害児心理学各論	選	2	2	後	講　義	○	○			

科　　目　　名	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
知的障害児教育Ⅰ	選	2	2	前	講　義	○	○			
知的障害児教育Ⅱ	選	2	2	後	講　義	○	○			
肢体不自由児教育	選	2	3	前	講　義	○	○			
病弱児教育	選	2	3	後	講　義	○	○			
特別支援教育各論	選	2	2	後	講　義		○	○		
発達障害の心理学	選	2	2	前	講　義	○	○			
発達障害児の生理・病理	選	1	1	後	講　義	○	○			
重複障害児の心理	選	1	2	集中	講　義	○	○			
重複障害児の生理・病理	選	1	2	前	講　義		○	○		
視覚障害児教育総論	選	1	2	後	講　義	○	○			
聴覚障害児教育総論	選	1	2	集中	講　義	○	○			
発達障害児教育	選	2	3	前	講　義	○	○			
重複障害児教育	選	2	3	前	講　義	○	○			
特別支援教育実習Ⅰ（事前･事後指導）	選	1	3	集中	実　習			○	○	○
特別支援教育実習Ⅱ	選	2	3	集中	実　習			○	○	○
教育課程論	選	2	2	前	講　義	○			○	
道徳の指導法	選	2	2	後	講　義	○				
特別活動の指導法	選	2	3	集中	講　義	○				
教育方法論	選	2	3	前	講　義	○				○
生徒・進路指導論	選	2	3	後	講　義	○			○	
生徒指導論	選	2	3	後	講　義	○			○	
教育相談	選	2	2	前	講　義	○	○	○	○	
養護実習指導	選	1	3	前	演　習			○	○	○
養護実習	選	4	3	後	実　習			○	○	○
教職実践演習（養護）	選	2	4	後	演　習	○	○		○	○
教科教育研究（保健）Ⅰ	選	2	2	後	講　義		○	○		
教科教育研究（保健）Ⅱ	選	2	3	前	講　義		○	○		
教科教育研究（保健）Ⅲ	選	2	3	後	講　義		○	○		
教科教育研究（保健）Ⅳ	選	2	4	前	講義(2017年度休講)		○	○		
事前・事後指導	選	1	4	前	実　習			○	○	○
教育実習Ⅰ	選	2	4	前	実　習			○	○	○
教育実習Ⅱ	選	2	4	前	実　習			○	○	○
教職実践演習（中・高）	選	2	4	後	演　習	○	○		○	○
衛生学	選	2	2	前	講　義	○				
公衆衛生学	選	2	3	後	講　義	○	○			
学校保健	必	2	1	後	講　義	○				
健康教育論	選	2	3	前	講　義	○				
養護学概論Ⅰ	選	2	2	前	講　義	○				
養護学概論Ⅱ	選	2	2	後	講　義	○	○			
健康相談活動	選	2	3	後	講　義		○	○		
栄養学	選	1	1	後	講　義	○				
食品学	選	1	1	後	講　義	○				
食育論	選	2	4	前	講　義	○	○			

科　目　名	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
解剖学	選	2	1	後	講　義	○				
生理学	選	2	2	前	講　義	○				
微生物学	選	2	2	前	講　義	○				
免疫学	選	2	2	後	講　義	○	○			
薬理概論	選	2	3	前	講　義	○				
子どもの病気と薬	選	2	3	後	講　義	○	○			
精神保健	選	2	2	後	講　義	○	○	○		
小児精神医学	選	2	3	前	講　義	○	○			
看護学概論	選	2	1	前	講　義	○	○			
学校看護学演習	選	1	1	後	演　習		○	○		
フィジカル・アセスメント	選	1	2	前	演　習	○	○	○		
看護学臨床実習指導	選	1	4	集中	実　習			○	○	○
看護学臨床実習	選	2	4	集中	実　習			○	○	○
学校救急処置	選	2	2	後	講　義	○	○			
学校救急処置演習	選	1	3	前	演　習		○	○		
内科学	選	2	2	後	講　義	○	○	○		
耳鼻咽喉科学	選	2	3	集中	講　義	○	○	○		
眼科学	選	2	3	前	講　義	○	○	○		
外科・整形外科学	選	2	2	集中	講　義	○	○	○		
歯科保健	選	2	3	前	講　義	○	○	○		
小児看護学（小児保健）	選	2	2	前	講　義	○	○			
子どもの身体運動と健康	選	2	1	後	講　義	○	○			
初年次教育Ⅰ	必	1	1	前	演　習					○
初年次教育Ⅱ	必	1	1	後	演　習				○	○
ボランティア体験Ⅰ	選	1	1	前	演　習				○	○
ボランティア体験Ⅱ	選	1	2	集中	演　習				○	○
教職研究Ⅰ	選	1	3	後	演　習				○	○
教職研究Ⅱ	選	1	4	前	演　習				○	○
教育心理ゼミナールⅠ	必	2	3	前	演　習		○			○
教育心理ゼミナールⅡ	必	2	3	後	演　習		○			○
教育心理ゼミナールⅢ	必	2	4	前	演　習		○			○
教育心理ゼミナールⅣ	必	2	4	後	演　習		○			○
卒業研究	必	6	4	通	演　習	○	○	○	○	○

教育心理学科専門科目カリキュラムマップ（2014～2011年度生）

教育心理学科ディプローマポリシー

DP1	教育心理，養護教育，特別支援教育に関した幅広い専門知識を修得し，積極的に活用できる。（知識・理解）
DP2	知識・経験を総合して，子どもの心と身体の状態を的確に把握し，適切に対応できる。（思考・判断）
DP3	教育心理学・養護教育・特別支援教育を通して，子どもの心身の発達・健康を支えケアすることができる。（技能）
DP4	チームワークにおいて，主体性と協同性を発揮できる。（興味・関心・態度）
DP5	子どもを支えケアする人材として，常に向上心を持ち，自律的に学習を進めることができる。（興味・関心・態度）

科　目　名	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
教育学概論	必	2	1	後	講　義	○				
教師論	必	2	1	前	講　義	○				
教育の歴史	選	2	1	前	講　義	○				
現代教育の諸問題	選	2	1	前	講　義	○				
心理学概論	必	2	1	前	講　義	○	○			
心理学史	選	2	1	後	講　義	○				
教育心理学	必	2	1	前	講　義	○	○			
学習心理学	選	2	2	後	講　義	○				
学校制度論	選	2	3	前	講　義	○				
カウンセリング概論	選	2	1	前	講　義	○				
カウンセリング演習Ⅰ	選	1	2	前	演　習			○		
カウンセリング演習Ⅱ	選	1	2	後	演習(2017年度休講)			○		
カウンセリング実習	選	1	3	後	実　習			○		
コミュニケーションの心理学	選	2	2	後	講　義	○			○	
家族心理学	選	2	2	後	講　義	○	○			
教育心理学研究法	選	2	3	前	講　義		○	○		○
教育心理学実験実習	選	2	3	後	実　習		○	○	○	
心理検査法実習	選	2	4	前	実　習			○	○	
教育心理学特講	選	2	4	前	講　義	○	○			
社会心理学	選	2	2	前	講　義	○			○	
心理統計法Ⅰ	選	2	2	前	講　義		○	○		
心理統計法Ⅱ	選	2	2	後	講　義		○	○		
心理療法概論	選	2	1	後	講　義	○				
心理療法各論	選	2	2	集中	講義(2017年度休講)	○	○	○		
心理療法演習Ⅰ	選	2	3	前	演習(2017年度休講)		○	○		
心理療法演習Ⅱ	選	2	3	後	演　習		○	○		
人格心理学	選	2	1	後	講　義	○				
生理心理学	選	2	4	後	講　義	○				
動物心理学	選	2	4	集中	講　義	○				
認知心理学	選	2	2	前	講　義	○				
発達心理学Ⅰ	必	2	2	前	講　義	○	○			
発達心理学Ⅱ	選	2	2	後	講義(2017年度休講)	○	○			
発達心理学特講	選	2	4	後	講　義	○	○	○		
臨床心理学	選	2	2	前	講　義	○				
臨床心理学特講	選	2	4	前	講　義		○			

科　目　名	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
精神医学概論	選	2	3	前	講　義	○	○			
特別支援教育総論	必	2	1	後	講　義	○	○	○		
特別支援教育の歴史	選	2	1	前	講　義	○				○
知的障害の心理学	選	2	1	後	講　義	○	○			
知的障害児の生理・病理	選	1	1	後	講　義	○	○			
肢体不自由児の心理	選	1	2	集中	講　義	○	○			
肢体不自由児の生理・病理	選	1	2	前･集中	講　義		○	○		
病弱児の心理	選	1	2	集中	講　義	○	○			
病弱児の生理・病理	選	1	2	集中	講　義		○	○		
障害児心理学各論	選	2	2	後	講　義	○	○			
知的障害児教育Ⅰ	選	2	2	前	講　義	○	○			
知的障害児教育Ⅱ	選	2	2	後	講　義	○	○			
肢体不自由児教育	選	2	3	前	講　義	○	○			
病弱児教育	選	2	3	後	講　義	○	○			
特別支援教育各論	選	2	2	後	講　義		○	○		
発達障害の心理学	選	2	1	前	講　義	○	○			
発達障害児の生理・病理	選	1	1	後	講　義	○	○			
重複障害児の心理	選	1	2	集中	講　義	○	○			
重複障害児の生理・病理	選	1	2	前	講　義		○	○		
視覚障害児教育	選	1	2	後	講　義	○	○			
聴覚障害児教育	選	1	2	集中	講　義	○	○			
発達障害児教育	選	2	3	前	講　義	○	○			
重複障害児教育	選	2	3	前	講　義	○	○			
特別支援教育実習Ⅰ（事前・事後指導）	選	1	3	集中	実　習				○	○
特別支援教育実習Ⅱ	選	2	3	集中	実　習			○	○	○
教育課程論	選	2	2	前	講　義	○			○	
道徳の指導法	選	2	2	後	講　義	○				
特別活動の指導法	選	2	3	集中	講　義	○				
教育方法論	選	2	3	前	講　義	○				○
生徒・進路指導論	選	2	3	後	講　義	○			○	
生徒指導論	選	2	3	前	講　義	○			○	
教育相談	選	2	2	前	講　義	○	○	○	○	
養護実習指導	選	1	3	前	演　習		○	○		○
養護実習	選	4	3	集中	実　習			○	○	○
教職実践演習（養護）	選	2	4	後	演　習	○	○		○	○
教科教育研究（保健）Ⅰ	選	2	2	後	講　義	○				
教科教育研究（保健）Ⅱ	選	2	2	前	講　義	○				
教科教育研究（保健）Ⅲ	選	2	3	後	講　義	○				
教科教育研究（保健）Ⅳ	選	2	3	前	講義（2017年度休講）	○				
事前・事後指導	選	1	4	集中	実　習		○			
教育実習Ⅰ	選	2	4	集中	実　習		○			
教育実習Ⅱ	選	2	4	集中	実　習		○			
教職実践演習（中・高）	選	2	4	後	演　習					○

科　　目　　名	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
衛生学	選	2	2	前	講　義	○				
公衆衛生学	選	2	3	後	講　義	○	○			
学校保健	選	2	1	後	講　義	○				
健康教育論	選	2	3	前	講　義	○				
養護学概論Ⅰ	必	2	1	前	講　義	○				
養護学概論Ⅱ	選	2	1	後	講　義	○	○			
健康相談活動	選	2	2	後	講　義		○	○		
栄養学	選	1	2	後	講　義	○				
食品学	選	1	2	後	講　義	○				
食育論	選	2	4	前	講　義	○	○			
解剖学	選	2	2	前	講　義	○				
生理学	選	2	2	後	講　義	○				
微生物学	選	2	1	後	講　義	○				
免疫学	選	2	2	後	講　義	○	○			
薬理概論	選	2	3	前	講　義	○				
子どもの病気と薬	選	2	4	後	講　義	○	○			
精神保健	選	2	2	後	講　義	○	○	○		
小児精神医学	選	2	3	後	講　義	○	○			
看護学概論	選	2	1	前	講　義	○	○			○
学校救急処置演習	選	1	3	後	演　習		○	○		
フィジカル・アセスメント	選	1	2	前	演　習	○	○	○		
看護学臨床実習指導	選	1	3	集中	演　習			○	○	○
看護学臨床実習	選	2	3	集中	実　習			○	○	○
学校救急処置	選	2	2	後	講　義	○	○			
学校看護学演習	選	1	1	後	演　習		○	○		
小児看護学（小児保健）	選	2	2	前	講　義	○	○			○
ダンスの社会学	選	2	2	後	講義(2017年度休講)	○	○			
子どもの身体運動と健康	選	2	1	後	講　義	○	○			
心と身体のフィットネス	選	1	3	後	演　習	○	○			
初年次教育Ⅰ	必	1	1	前	演　習					○
初年次教育Ⅱ	必	1	1	後	演　習				○	○
ボランティア体験Ⅰ	選	1	1	前	演　習				○	○
ボランティア体験Ⅱ	選	1	2	集中	演　習				○	○
教職研究Ⅰ	選	1	3	後	演　習				○	○
教職研究Ⅱ	選	1	4	前	演　習				○	○
教育心理ゼミナールⅠ	必	2	3	前			○			○
教育心理ゼミナールⅡ	必	2	3	後			○			○
教育心理ゼミナールⅢ	必	2	4	前			○			○
教育心理ゼミナールⅣ	必	2	4	後			○			○
卒業研究	必	6	4	通		○	○	○	○	○

Ⅳ　自由選択科目

自由選択科目とは，総合教養教育科目，外国語教育科目，専門教育科目の各最低修得単位数を超えて修得した単位の他，他学科・他学部受講制度を利用して修得した単位，博物館学芸員，図書館司書，司書教諭，社会教育主事の各資格課程で修得した単位，入学前ないし在学中に他大学で修得した単位のうち専門科目に読み替えできない単位も，このカテゴリーにカウントする。

人文科学部からの開放科目

授業科目
古典文学史
近現代文学史
日本語史
言語表現史
身体表現史
古典文学研究１
古典文学研究２
古典文学研究３
近現代文学研究１
近現代文学研究２
近現代文学研究３
日本語研究１
日本語研究２
表現創造研究１
表現創造研究２
表現創造研究３
古典文学講義１
古典文学講義２
古典文学講義３
近現代文学講義１
近現代文学講義２
近現代文学講義３
日本語講義１
日本語講義２
表現創造講義１
表現創造講義２
表現創造講義３
表現創造講義４
異文化理解１A～C
異文化理解２A・B
イギリス文化研究１
イギリス文化研究２

授業科目
イギリス文化研究３
アメリカ文化研究１
アメリカ文化研究２
アメリカ文化研究３
地理学概論
地誌
哲学の世界と歴史
日本人の思想
ヨーロッパ人の思想
アジア人の思想
日本美術史
西洋美術史
東洋美術史
死生観の歴史
倫理と価値観の諸相
歴史人物の生と時代１B
歴史人物の生と時代２B
地域史特殊研究２A
地域史特殊研究２B
地域史特殊研究２C
地域史特殊研究２D
地域史特殊研究２E
地域史特殊研究２F
地域史特殊研究２G
吉備地方文化特論１
吉備地方文化特論２
吉備地方文化特論３
吉備地方文化特論４
考古学の基礎
考古学の現在
古文書学の基礎
古文書学解読

経営学部からの開放科目（2014～2016年度）

授業科目
初級簿記
中級簿記（2014年度生のみ）
英文ビジネスプレゼンテーション入門
国際ビジネス入門
商業学入門
農業経済学入門
ホスピタリティ入門
経営史入門
経営戦略論入門
経営哲学入門
金融概論
証券市場論入門

※開講時限は，人文科学部の時間割（R館１階）で確認すること。
※履修年次，開講期，授業内容等は，人文科学部・経営学部履修要覧（R館１階に設置），Webシラバスで確認すること。